



鍛えて、ほめて 子どもの可能性を伸ばそう!

令和元・2・3年度

学ぶことに**挑**み続ける

子どもを育む**鍛**ほめプロジェクト

実践報告書

福岡県教育委員会
令和4年3月





福岡県教育委員会では、子どもが自律的に成長するための原動力となる人格的資質（学ぶ意欲や自尊感情、チャレンジ精神、勤勉性等）を育成するため、鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばす「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた具体的実践を県内に広く普及することを目的として、「鍛えよう！ほめよう！」プロジェクトを実施しています。

令和元・2・3年度は県内18の小・中学校が研究協力校として、児童生徒の基礎学力の定着を図る取組において、「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた学ぶ意欲や自尊感情等の向上を図る教育活動について実践してきました。

本実践報告書では、18校の研究協力校の3年間の研究成果や取組のポイントについて紹介しています。研究協力校の実践を参考にいただき、各学校で取り組まれている「鍛ほめ福岡メソッド」を取り入れた教育活動のさらなる充実をお願いします。



☆研究協力校の実践☆

「めざせ！学びの持久力アップ プロジェクト」【宇美町立宇美小学校】	1
「取組1 鍛ほめ月例・検定テスト」「取組2 加布里の鍛ほめメソッド」【糸島市立加布里小学校】	3
「一単位時間で取り組む 鍛ほめメソッド」【須恵町立須恵東中学校】	5
「主体的に学ぶ子どもを育てる教育活動」【中間市立中間東小学校】	7
「トライ！ 自学！」【中間市立中間西小学校】	9
「学ぶ意欲の喚起と基礎基本の定着」【中間市立中間東中学校】	11
「『家庭学習・自主学習の習慣を育てるプロジェクト』の取組」【久留米市立山本小学校】	13
「基礎・基本を育み、学ぶ意欲を高める鍛ほめプロジェクト」【小郡市立東野小学校】	15
「チャレンジ！宝の城ノート」（自主学習ノートを生かした取組）」【小郡市立宝城中学校】	17
「家庭学習と授業をつなげる 学力向上大作戦」【筑後市立筑後北小学校】	19
「自己有用感に裏付けられた自尊感情高揚のための取組」【大川市立木室小学校】	21
「主体的に学び、高め合う生徒の育成～『鍛ほめ福岡メソッド』を位置付けた学習過程を通して～」【筑後市立筑後北中学校】	23
「『いい声、いい顔、いい心』学力向上プロジェクト」【福智町立伊方小学校】	25
「いなちゃんパワーアップタイム」【嘉麻市立稲築東小学校】	27
「自分を超えろ！ 自己目標更新プロジェクト」【添田町立添田中学校】	29
「ワンアップ自主学習プロジェクト！！」【行橋市立仲津小学校】	31
「千束小鍛ほめチャレンジ」【豊前市立千束小学校】	33
「自主学習ノート（Chizuka Up Note）の取組を通じた学力向上」【豊前市立千束中学校】	35

☆研究のまとめ☆

「学校がチャレンジ 教師がチャレンジ 子どもがチャレンジ」【福岡教育大学 教授 生田 淳一】	37
「学ぶ意欲や自尊感情を高めるには」【福岡教育大学 特任教授 芋生 修一】	39

☆資料☆

「算数・数学における学習到達度診断シート『未来への一步』を活用した学力向上の取組」	41
---	----

研究協力校の 実践

鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばそう！

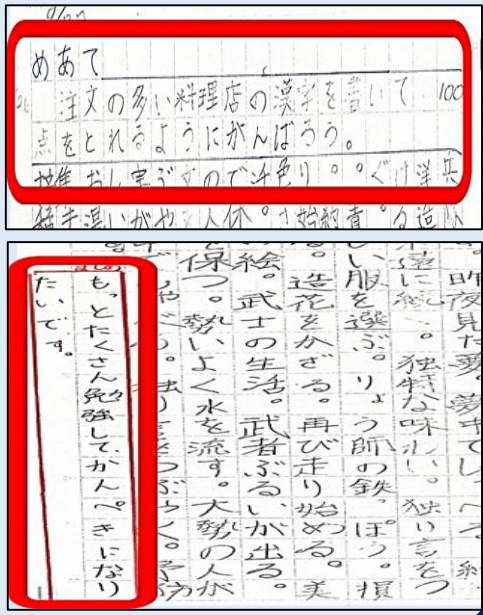


☆ポイント
漢字・計算・文章問題の3つの中から、自分が付けたい学びの持久力を選択し、取組の計画を立てる。日々の単元テストや小テストによって成果を確認する。

挑む活動
【自力解決するための子どもの活動】

具体的な取組

- 自分が選択した内容について、
①学校においては各学年が設定する時間②家庭においては家庭学習の自学で取り組み、記録する。
- 学校が設定するテストを受け、取組の成果と課題を整理し、次の取組の計画を立てる。
- 練習の方法を自分で選択して取り組む。



☆ポイント
自分でめあてを立てて取り組み、苦手な内容の克服やテスト対策を行っている。

☆ポイント
保護者・教師からの価値付けをもとに、次の計画を立てる。

目標設定の活動
【目標をもたせるための活動】

具体的な取組

- 「めざせ！学びの持久力アップ」の説明を聞き、1年間の見通しをもつ。
- 自分の目標と取り組む内容を決めるためのテスト等を行う。
- 目標を設定し、練習に取り組む計画を立てる。



振り返る活動
【子ども自身が振り返る活動】

具体的な取組

- 2月には、設定した目標を達成したか、達成のために効果的だったことは何かを子ども自身がまとめる。
- 振り返りの場を設定し、全校朝会で学校全体での結果を聞くとともに、各学級で取り組んだ成果等について感想を発表する。
- 各自が、保護者に結果を報告する。

1	漢字の持久力アップ 漢字の多い料理店の漢字を書いて、100点をとれるようにがんばろう。	○	達成
2	漢字の持久力アップ 漢字の多い料理店の漢字を覚えて、100点をとれるようにがんばろう。	○	達成
3	漢字の持久力アップ 漢字の多い料理店の漢字を覚えて、100点をとれるようにがんばろう。	○	達成
4	漢字の持久力アップ 漢字の多い料理店の漢字を覚えて、100点をとれるようにがんばろう。	○	達成
5	漢字の持久力アップ 漢字の多い料理店の漢字を覚えて、100点をとれるようにがんばろう。	○	達成
6	漢字の持久力アップ 漢字の多い料理店の漢字を覚えて、100点をとれるようにがんばろう。	○	達成
7	漢字の持久力アップ 漢字の多い料理店の漢字を覚えて、100点をとれるようにがんばろう。	○	達成
8	漢字の持久力アップ 漢字の多い料理店の漢字を覚えて、100点をとれるようにがんばろう。	○	達成
9	漢字の持久力アップ 漢字の多い料理店の漢字を覚えて、100点をとれるようにがんばろう。	○	達成
10	漢字の持久力アップ 漢字の多い料理店の漢字を覚えて、100点をとれるようにがんばろう。	○	達成



研究協力校 宇美町立 宇美小学校

「めざせ！学びの持久力アップ プロジェクト」



Q1 子どもが自分で取組を選択・計画し、継続して学びに取り組むための支援を教えてください。

A1 学校では毎週月曜日の学びタイムにおいて1週間の計画を立てて取り組みます。その成果を頑張りシートで振り返り、保護者・教師からの価値付けをもとに次の計画を立てるというサイクルを繰り返します。さらに、ノートの使い方、練習の方法等を例示したり、児童の実態に合わせた方法を紹介したりしながら、少しずつ自己選択ができるよう支援しています。



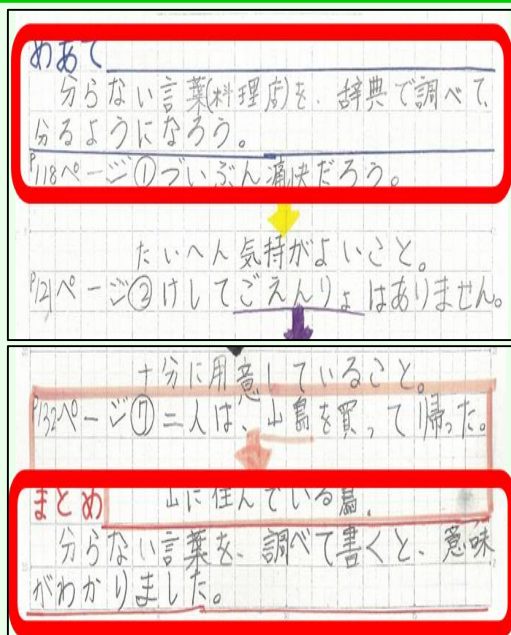
Q3 学びの持久力アッププロジェクトと関連付けて、どのような授業改善を行っていますか。

A3 算数科の授業において、予習を取り入れ、練習や振り返りを大切に、児童が家庭学習を選ぶ・決める学習過程の授業づくりを行いました。教科書を参考に自力解決してくるまでを予習としたことで、子どもたちは自分の理解度ははっきりとさせて授業に臨むことができるようになりました。また、解説時間の短縮にもつながら、練習問題を解いて交流したり、その結果を生かしてその日の家庭学習まで選ぶ・決めるといった振り返りの時間を確保したりすることができています。



Q2 設定した目標を達成するために、子どもたちはどのように取り組んでいますか。

A2 家庭学習や各学年が設定する時間に自分が選択した学習に取り組めます。自学ノートでは自分でめあてを立てて苦手な内容の克服やテスト対策、「未来への一歩」で間違えたところの復習を行っています。また、自学ノートに振り返りを行うことで有用感も感じることができます。



Q4 このプロジェクトに取り組むことで、どのような効果がありましたか。

A4 本校の取組は児童が学習の有用感を味わいながら「学ぶ意欲を高める」とともに、「自尊感情を高めること」をねらいとしていました。取組の結果と振り返りを記録し積み上げたことで、家庭での自主学習の習慣が身に付いています。SRT調査では、「難しい問題でも、いろいろなやり方を考えてがんばる」という設問において、「よくあてはまる」「どちらかといえばあてはまる」を選択した児童が82%以上となっており、学ぶ意欲の高まりが見られました。

挑む活動

【 目標に向かって繰り返し鍛える 】

具体的な取組

家庭学習や帯の時間、帰りの会など様々な時間を使って繰り返し同じ問題に取り組ませる。教材作成業者と連携し、児童の課題に即した本校独自のプリントを作成する。

繰り返し学ぶことの
有用性や実効性

教材作成業者と連携	
家庭学習	鍛ほめ月例テスト
帯の時間	鍛ほめ月例テスト
帰りの1問	鍛ほめ月例テスト
	鍛ほめ検定テスト

【このサイクルを年間3回行う】

具体的な取組

学級独自で決めたチャレンジ目標に向かって、実践を積み重ねる。下の写真は、「ドッジボールラリー100回」にチャレンジしている子どもの様子。一人一人の挑戦を学級全体の挑戦として共有する工夫が大切である。



挑戦すること
協力することの楽しさ

☆ポイント

定着状況診断テストや標準学力調査の結果をもとに、プリントの内容を吟味し、学習到達度診断テストに備える。

☆ポイント

定着状況診断テストVer2や標準学力調査の結果を受けて、課題を分析し、年度末の指導に生かす。

☆ポイント

定着状況診断テストに際して、事前に、算数の授業で毎時間計算力アップの取組を行う。

目標設定の活動

【 目標達成シート・チャレンジ目標 】

具体的な取組

目標達成シートでは、月例テストや検定テストの目標点数を児童が設定する。教師も児童が設定した目標を尊重し、認める。

鍛ほめP「自己目標達成シート」 年 組 名前【 】				
	7月	8月	9月	検定テスト
国	自己目標	自己目標	自己目標	自己目標
算	自己目標	自己目標	自己目標	自己目標
英	自己目標	自己目標	自己目標	自己目標
道	自己目標	自己目標	自己目標	自己目標
体	自己目標	自己目標	自己目標	自己目標
科	自己目標	自己目標	自己目標	自己目標
他	自己目標	自己目標	自己目標	自己目標

※年間3回ある検定テストでは、検定という趣旨をふまえ、合格ラインを設定し評価する。

具体的な取組

全学年で、様々な分野に取組を広げ、児童の挑戦する心や協力する心を喚起する取組を取り入れることにしている。

1年2組のチャレンジ	2年2組のチャレンジ	3年1組のチャレンジ
目標 ・ていねいにかく。 (もじ・すじ・え) ・ヒカヒカ大きくせん。	目標 ・かけ算九九100問 テスト 合計 2400点以上	目標 ・全員発表 1日に全員30分以上発表-50回
4年2組のチャレンジ	5年1組のチャレンジ	6年1組のチャレンジ
目標 ・ドッジボール ラリー100回!	目標 ・竹取物語專家物語 を暗唱しよう。 クラス全員で300冊 の本を読む。(4/24まで)	目標 ・大縄跳び 3分間で300回以上

振り返る活動

【 児童の頑張りをしっかりと褒める 】

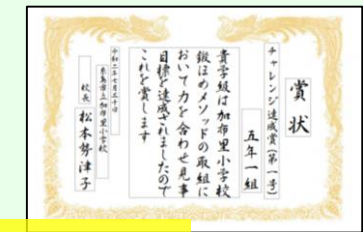
具体的な取組

月例テストの達成度合いや検定テストの可否をもとに、自己評価をさせ、次への目標につなげさせる。また、シールを与えたり適切にコメントをしたりすることで、学びに向かう意欲を高める。



具体的な取組

チャレンジ目標を達成した学級には、賞状（ドッジボールラリーに取り組んだ学級には公式球）を贈呈。

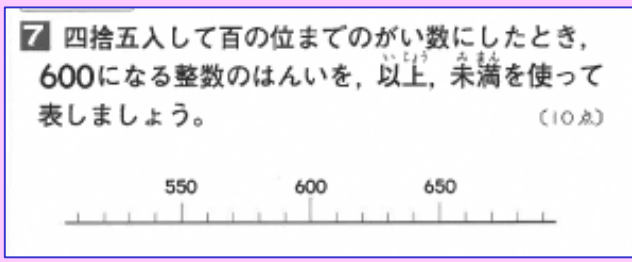


非認知能力
の高まり



Q1 どのように教材作成業者と連携して鍛ほめテストの問題を作成したのですか？

A1 教材作成業者との連携では、テストの回数や時期、問題の内容について検討しました。



【課題をもとに作成した問題の例】

特に問題の内容については、**前年度の標準学力調査**で課題が大きかった**問題や傾向**を分析し、毎年改善を図りました。

Q2 鍛ほめテストで目標を達成したらどのように達成感を味わわせるのですか？

A2 鍛ほめ月例テストでは、達成度合いに応じて、検定テストでは合否をもとに、目標達成シートに自己評価をさせます。
 その際、**シールを与えたり、教師が適切にコメントをしたり**することで、達成感を味わわせ、学びに向かう意欲を高めます。

	7月	8月	9月	検定テスト
国	100点	100点	100点	100点
語	特選	特選	特選	特選
算	95点	100点	95点	95点
数	特選	銀賞	特選	特選

【目標達成シート】

Q3 鍛ほめメソッドでは、どのようなチャレンジ目標を設定するのですか？

A3 様々な分野に取組を広げ、児童の**挑戦する心**や**協力する心**を喚起する目標を設定しました。具体的には、右上にあるような目標例を学級担任に提案し、その後右下のように全学級がそれぞれ目標を決めて取り組みました。

- 例：全員発表を50回
- 例：大縄を3分間に300回
- 例：読書を2000冊
- 例：全員跳び箱を跳べる

1年2組のチャレンジ	2年2組のチャレンジ	3年1組のチャレンジ
目標 ・ていねいにかく。(もじ・すうじ・え) ・ピカピカ大きくせん	目標 ・かけ算九九100問テスト ・合計 2400点以上	目標 ・全員発表 50回 ・大縄跳び 50回
4年2組のチャレンジ	5年1組のチャレンジ	6年1組のチャレンジ
目標 ・ドッジボール ライバル対決 ・宿題提出 100%	目標 ・竹取物語 早稲穂を鳴らす (90%以上) クラス全員で300冊の本を読む。(7%以上)	目標 ・全員発表 1日に全員3回以上発表(50回) ・大縄跳び 3分間で300回以上

Q4 チャレンジ目標を達成したら、どのように達成感を味わわせるのですか？

A4 目標を達成した学級には、**賞状**を渡すほか、**校内掲示板**に達成マークを貼って他の児童にも達成したことが伝わるようにしました。また**学校通信・学級通信**を通じて保護者に知らせ達成をともに喜びました。



【達成を喜ぶ児童の様子】



【達成後の学級通信】

挑む活動

【自分の考えを説明する生徒 「友愛」】

具体的な取組

- 自分の説明した内容を友達に評価してもらうことで、自分の考えのよさに気づく。
- 友だちの考えを聞くことで、自分の考えとの違いに気づく。



☆ポイント

子供たちの求めによる対話活動において、評価の視点を明確にすると活動が充実します。

☆ポイント

時間を確保し、身に付いた資質・能力を価値づけると学びの手応えを感じます。

☆ポイント

見方・考え方を明確にさせると見通しができ「解決したい・できるようになりたい」という目的意識がうまれます。

目標設定の活動

【自分の考えをつくる生徒 「自主」】

具体的な取組

- 各教科の見方・考え方を働かせ、問題解決の見通しを立てる。
- 前時までの学習をノートや教科書等を使って振り返り自分の考えをつくる。



振り返る活動

【自分の考えをつくりかえる生徒 「創造」】

具体的な取組

- 挑む活動を振り返り、言語化することで、自分の考えを再構築する。
- 振り返る活動を通して、家庭学習や次の授業の見通しをもつ。

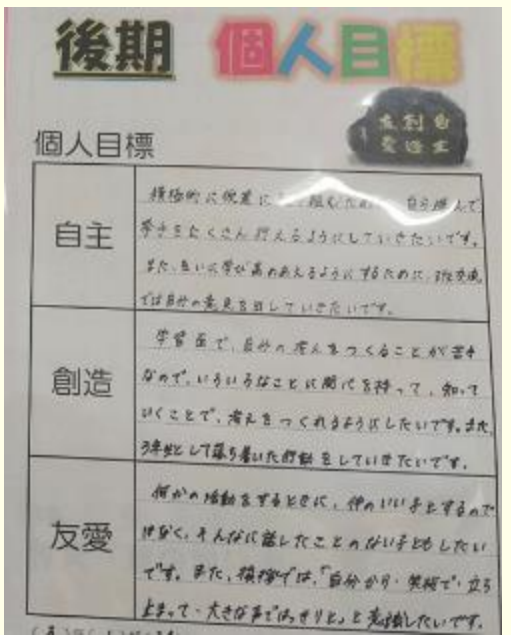


Q1 「自主」「創造」「友愛」とは？

A1 「自主」「創造」「友愛」とは、本校の校訓であり、それらの資質・能力を身に付けた生徒の育成が本校の重点目標となっています。生徒一人一人が自分の考えをつくり、説明し、他者との交流を通して、再構築する姿を目指しています。これらの活動を通して、見方・考え方を磨き、予測困難な社会に対応できる生徒の育成を目指しています。

Q3 特別活動での取組は？

A3 毎学期の目標や学校行事においても「自主」「創造」「友愛」の視点で個人目標を立て、それらの活動の後には、振り返る活動を設定し、自らの成長を実感させています。



Q2 評価・改善の方法は？

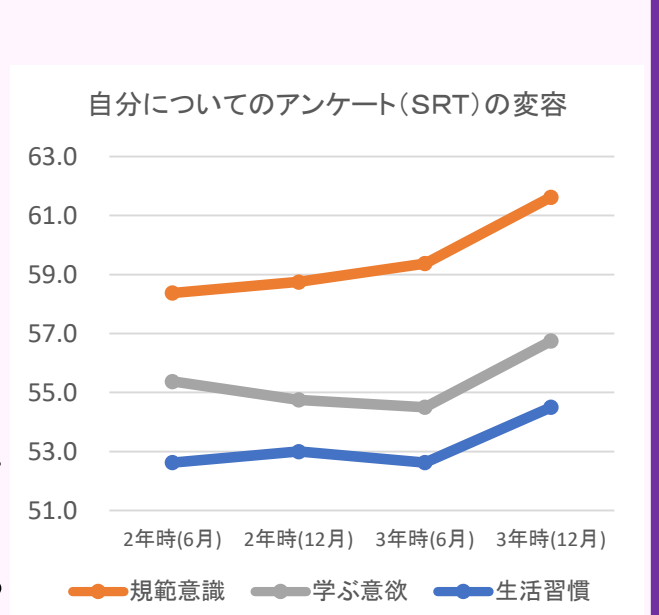
A2 3つの資質・能力を「須恵東中生がめざす9の姿」で具体化し、「授業で身に付ける3つの姿」と計12の姿で生徒評価・教師評価を行い、2つの結果のズレから取組内容を改善しています。

- 「須恵東中生がめざす9の姿」**
1. 自ら挨拶できる東中生
→ 朝の挨拶がきちんと、帰りの「こんにちは」の挨拶が丁寧
 2. 自ら進んで学校生活に取り組む東中生
→ 勉強、生徒会活動、係活動、学校行事など
 3. 新しい生活様式を考えながら学校生活を送ることができる東中生
→ 手洗い、手指消毒、マスクの着用など
 4. 無言清掃を生態系を取り組む学校の員として働くことができる東中生
→ 掃除の要領、雑音の静か
 5. ボランティア活動に意欲的に取り組む人の役に立ちたい東中生
→ 各学年委員の取組など
 6. 物事をいろんな人の立場や様々な角度から見る事ができる東中生
→ 友達との関係、話し合い、活動で友達の見え方、自分の考えを深めるなど
 7. 相手の思いや考えを受け止め、立腰正対ができる東中生
→ 朝の立腰正対、授業時の立腰正対、朝の挨拶の姿の立腰正対
 8. 人間関係を広げ、誰と誰と仲良く接することができる東中生
→ 思いやりのある言葉、感謝の言葉など
 9. 保護者や地域の人たちのおかげで自分が交えられると感じる東中生
→ 登下校中、地域行事など
- 令和3年度生徒会役員

【生徒会役員が作成した掲示物】

Q4 どのような成果がありましたか？

A4 視点を明確にした目標を設定することにより、何を頑張れば自分の成長につながるかがわかり、規範意識、学ぶ意欲、生活習慣が向上しました。





挑む活動

【到達度テスト合格を見据えた自主学习】

〈具体的な取組〉

- ① 目標達成に向け、その日の学習のめあてを立てる
 - ・ ドリカムノート（自学帳）にその日の自分の学習のめあてを書く。
- ② 学習計画表に基づき、自主学习に取り組む
 - ・ 類似問題を解いたり教科書の問題を解き直したりして、自分の苦手な部分を強化する。
- ③ ドリカムノートのアドバイスを基に自分の学習を見直す
 - ・ アドバイスを参考に学習内容や計画を見直すこともある。
- ④ 到達度テストに取り組む
 - ・ 実施後は、採点・返却されたテストを見直し、できていない問題については、翌以降、再テストを受け、確実にできるようにする。

☆ポイント

- 類似問題は数種類作成します。計算については、「未来への一步」も活用して問題を作成します。漢字については、本テストの問題と併せて、その学期に学習する漢字を全て網羅できるようにしています。

☆ポイント

- 到達度テストの類似問題をプレテストとして解かせることで、今の自分の実態を把握させます。
- おさえておくべき内容のポイントを提示し、満点を目指して自主学习を進められるように見通しをもたせます。

☆ポイント

- 取組状況や到達状況を学級通信等で発信し、家庭でも称賛や励ましを受けられるようにします。
- 参考になりそうなドリカムノートについては、提示したり、学級通信等で紹介したりして、適切な学習内容や効果的な学習方法を学級全体に広めていきます。

目標設定の活動

【家庭学習強化週間の学習計画立案】

〈具体的な取組〉

- ① プレテストに取り組む
 - ・ 学校独自に作成したテスト（漢字書き・読み・計算）を行い、自分の苦手なところや弱点を知り、学習の見通しをもつ。
- ② 目標点数を設定する
 - ・ 到達度テスト合格を見据え、各自で目標点数を設定する。
- ③ 目標達成に向けた学習計画を立てる
 - ・ いつ、どんなことを学習するかをエントリーカードに記入する。
- ④ 教師が目標と計画の確認・助言をする
 - ・ 目標点数が適切か、学習計画の内容が適切かについて教師が確認し、アドバイスする。

学習した時間	達成状況	学習内容
16時8分～17時20分	◎◎◎	漢字ドリル、歴史年号587
16時22分～17時47分	◎◎◎	算数100問、(社)外勉強、歴史練習
18時50分～19時55分	◎◎◎	算数100問、漢字ドリル、歴史1ヶ月
7時15分～7時45分	◎◎◎	歴史練習+漢字帳+2ページ
16時15分～17時10分	◎◎◎	漢字ドリル、歴史練習
9時20分～10時00分	◎◎◎	漢字ドリル、歴史×歴史
16時5分～17時20分	◎◎◎	漢字ドリル、歴史×歴史

振り返る活動

【エントリーカードの記入と交流】

〈具体的な取組〉

- ① エントリーカードに振り返りを記入する
 - ・ 1週間の計画やその日の学習のめあてに沿って学習することができたかを毎日振り返り、エントリーカードに◎○△を記入する。
 - ・ 家庭学習強化週間終了後に、コメント欄に振り返り（どれくらい計画に沿って学習を進められたかや今までの自分と比べてどうだったか、今後どのようにしていきたいかなど）を記入する。
- ② 取組内容を交流する
 - ・ お互いのドリカムノートを友達同士で見合い、よさを見つけて付箋にコメントを書いて貼る。
- ③ 保護者・教師による価値付けをする
 - ・ 家庭学習強化週間終了後、保護者からコメントを入れていただく。

ふりかえり ◎◎◎
エントリーカードで、自分の日々を見直せようかなと
思います!

保護者から
宿題や自主学习も頑張っている、家の様子も毎日おかげで
自分で時間見つけて行動できるようになったことも成長を感じました。
これからも継続して頑張ってください!

研究協力校 中間市立 中間東小学校

「主体的に学ぶ子どもを育てる教育活動」

Q1 「鍛ほめプロジェクト」に取り組んで、子供たちにはどんな成果がありましたか。

A1

① 自分を認められるようになった！

SRTの結果から自尊心と学ぶ意欲について、男女とも高まりが見られました。普段の授業でも、課題意識をもって学習に取り組む児童の姿が多く見られるようになりました。

② 書くことへの抵抗感が減った！

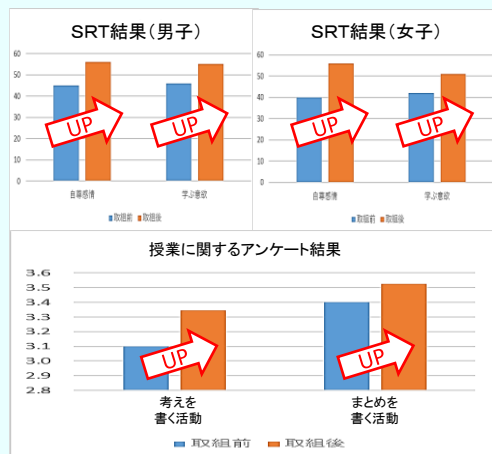
学期末の振り返りアンケートで「考えやまとめを書くことができる」と答える児童が増えました。

③ 計画的に学習するようになった！

自分で計画を立て、目標に向かって学習することで達成感や成就感を感じるようになりました。

④ 教師も変わった！

教師も授業づくりの際、課題意識をどうもたせるかを意識して導入部分を工夫するようになりました。



Q3 児童のモチベーションを保つために、教師が意識したことはどんなことですか。

A3

① がんばりを認めよう！

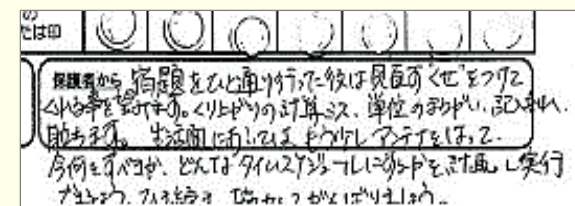
教師による評価・称賛が大切です。家庭学習強化週間は年3回実施しますが、その1週間に学習計画立案→実施→振り返りのサイクルをつかませることで、強化週間以外の家庭学習の習慣づけができました。また、その1週間は教師による確認を毎日欠かさないようにしました。細かな言葉かけが難しい時にもメッセージ入りのスタンプを押すなどしました。

② お互いのよさや過程を認め合おう！

児童同士の交流も有効でした。相互評価の時間を設けることで、自分では気付いていないよさなどを知ることができ、それが次への学習意欲につながったようです。また、他者の学習の様子を知ることによって、自らの学習の参考にもなったようでした。

③ 家庭も一緒に見守ろう！

保護者からの励ましの声も児童のやる気を高めました。褒めることだけでなく、時には厳しい言葉もありますが、児童らにとって大きな支えになっていました。



Q2 「書く力」を育てるために、教師が意識したことはどんなことですか。

A2

① 「書く」ことを習慣づけた！

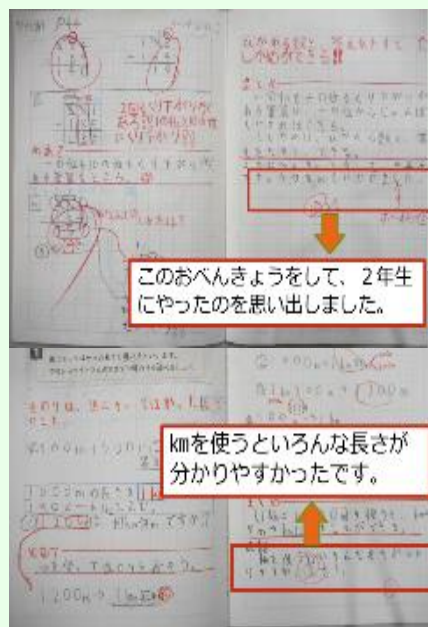
一単位時間の授業の中で「めあて」「まとめ」「振り返り」をしっかりと書かせました。始めは文章を書くことに抵抗感をもつ児童が多かったのですが、まとめについては、キーワードを指定したり、参考文例を提示したりするなどして、何とか自力で書けるように支援をしていきました。振り返りについては、書く視点を与えました。

② 「真似る」は「学ぶ」！

児童同士で交流させることで、友達が書いた文章のよさなどを自分の文章に生かしていく場を設定し、よいイメージをもたせるようにしました。

③ 「書く」機会を増やした！

授業だけでなく、帰りの会や家庭学習ノート等に、一日の振り返りを文章に表す機会を増やしました。



Q4 小・中学校で共通した「鍛ほめプロジェクト」の取組はありますか。

A4

○ 「ドリカムノート」を用いた家庭学習の取組を実施しています！

「ドリカムノート」とは、自己の夢を実現するための中間市統一の家庭学習ノートです。小学校版は、自己の課題を中心とした週末の自主学習を、中学校版は、毎時間の授業内容の整理、毎日の自主学習を行うノートとして使用します。

最初のページには「将来の夢」「ノートを終えるまでの目標」を、最後のページには「学習の足あと(総時数)」を記すようになっています。

また、自学の取り組み方も提示し、小中一貫して主体的に「目標を設定し、課題に挑み、自己の学習を振り返る」といったサイクルで学習できるよう支援しています。



<ドリカムノートの取り組み方>

- ① 机上进行整理し、テレビやスマホ等の電源を切り、集中できる環境をつくりましょう。
- ② できるだけ決まった時間に取り組みましょう。
- ③ 1～6時間目の教科名・めあて・学習内容を思い出しながら書きましょう。
- ④ 思い出せない内容は、ノートや教科書を見ながら書きましょう。
- ⑤ 理解できていない学習内容や定着させたい学習内容、日記等を自学ページに書きましょう。
- ⑥ うまく思い出せない内容や理解不十分なところは、その日のうちにチェックしておきましょう。
- ⑦ ドリカムノート以外の学習に取り組む、学習した内容を「その他の学習内容」欄に記録しましょう。
- ⑧ 総学習時間を分単位で書きましょう(ドリカムノート時間 + その他の学習時間)。
- ⑨ 自学に取り組んだ自己評価をしましょう。
- ⑩ 明日の教科連絡を見ながら、翌日の準備を済ませ、学習後はできるだけ早めに就寝しましょう。



☆ポイント

- 漠然とした目標点数ではなく、プレテストや前回のテスト、過去の調査問題の結果をもとに、一人一人にふさわしい目標点数を設定します。
- 市販のプレテストや過去の調査問題を活用することで、新しく問題を作成する時間を軽減することができます。無理なく取り組むことができます。
- 学校独自で作成した計算チャレンジテストは、「未来への一歩」を問題作成の材料として取り入れています。

挑む活動

【「苦手」克服のための取組】

＜具体的な取組＞

- ① **問題集やプリントを使用し、自学に取り組む**
 - ・ 学校にある問題集やプリントの中から自分の課題(特に苦手なもの)に合った問題を選び、テスト本番に向けて自学をする。
- ② **自学ノートを提出し、アドバイスをもらう**
 - ・ 1週間を1クールとし、その間に2～3回、担任にノートを提出する。その時のアドバイスをもとに学習内容を変更したり、計画を変更したりする。テストによっては2クールから3クール繰り返す。
- ③ **児童同士で取り組みを報告し合う**
 - ・ 児童と担任のみのやり取りだけでなく、朝の会や帰りの会等の時間を使って、児童同士で取り組んでいることを交流し合う。



☆ポイント

- 4～6年生の内容の問題集約150冊の中から自分の学習内容に合ったものを選び、持ち帰ることができるようにしています。
- 使いたい問題集がすでに貸出中だったり、使ってみたい問題集が学校になかったりすることがあるので、子供たちの意見を取り入れながら問題集を買いたしています。

☆ポイント

- タブレットを有効活用することで、友達の過去の自学ノートを画像として撮りためておくことができ、これらを見返すことでいつでも自学の方法の参考にすることができます。

目標設定の活動

【「苦手」の自覚と目標設定】

＜具体的な取組＞

- ① **プレテストや過去の調査問題に取り組む**
 - ・ 目標点数の設定の根拠とするために、市販のプレテストや過去の調査問題等に取り組む、自分の苦手や弱点を知る。
- ② **目標点数を設定する**
 - ・ 単元末テスト、学校独自で作成した漢字チャレンジテスト(年4回)と計算チャレンジテスト(年3回)、標準学力テスト等に向け、各自で目標点数を設定する。
- ③ **計画を立てる**
 - ・ 目標点数に達するために、「いつから」「どんな内容を」「何を使って」学習するかの計画を立てる。
- ④ **教師による、目標と計画の確認**
 - ・ 目標点数や学習内容、方法等が適切かについて教師がアドバイスする。



振り返る活動

【自学の取組の交流】

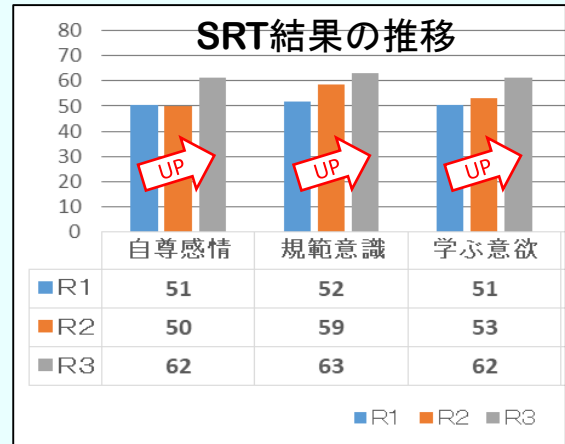
＜具体的な取組＞

- ① **おすすめの問題集を紹介する**
 - ・ 学級活動等の時間に、自分が自学で使ってみた問題集のおすすめポイントを紹介し合い、友達の紹介を聞いてこれからの自学に生かす。
- ② **自学のノートを見合う**
 - ・ お互いの自学ノートを見合い、よいところに付箋を貼ってコメントを書いたり、タブレットで写真を撮ってコメント記入した後に、学習管理システム(Google classroom)で紹介したりする。
- ③ **教師による価値付けをする**
 - ・ 自学ノートにコメントしたものを掲示したり、適切な学習内容、学習方法、ノートの使い方をしてしている児童の自学ノートを随時紹介したりして、自身の自学の改善につなげさせる。



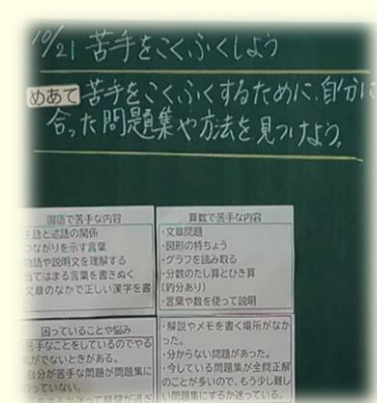
Q1 「鍛ほめプロジェクト」に取り組んで、子供たちにはどんな成果が表れましたか。

- A1
- ① 「苦手」なことに向き合うことができるようになった！
自分の苦手なことや弱点に向き合うことは、子供にとってできれば避けたいことです。しかし、苦手や弱点を知り、それらを克服するために自学に取り組むことで、わかる・できることが増え、点数という目に見える形で成果が出ることに気づくことができました。
 - ② 中学校での学習の仕方がイメージできた！
中学校進学を見据え、定期考査や高校受験など、自分の目標に向かって計画を立てて学習する素地をつくることができました。
 - ③ 自分に自信がついた！
できなかったことができるようになった、わからないことがわかるようになった等の経験を繰り返すことで、自尊感情や学ぶ意欲が向上しました。



Q3 振り返る活動で教師が重視していることはどんなことですか。

- A3
- ① よさを認め合おう！
自分の自学の取組と友達の取組を同時に振り返ることで、それぞれのよさを認め合うことができました。
 - ② 友達のよいことは取り入れよう！
自分の自学ノートと友達の自学ノートを比較することで、自身の学習をよりよいものに改善する意識が向上し、学力の形成につながりました。
 - ③ 先生のアドバイスを参考に、自学の改善をしよう！
教師からのコメントを参考に、自学の方法を見直すことで、自身の学力に合った学習方法や内容を選択し、新たな学習へチャレンジしようとする意欲が高まりました。しかし、「苦手」の克服に重きを置いていると、時には弱音を吐いたり、やる気が薄れてしまったりする子供も見られました。そのような場合には教師が素早く見極め、「得意を伸ばす自学もやってみよう」「違う教科もやってみたら？」とアドバイスをすることで、学ぶ意欲を失わないように、継続して取り組むことができるように意識しました。



Q2 目標設定の際に、教師が気をつけたことはどんなことですか。

- A2
- ① 目標とする機会をだんだんと増やした！
4年生の段階で、学校独自で作成した漢字チャレンジテスト(年4回)と計算チャレンジテスト(年3回)に向けて、目標点数を決め、自学に取り組むことから始めました。自学に慣れてきた頃に、単元末テスト、標準学力テスト、福岡県チャレンジテスト、福岡県学力調査、全国学力・学習状況調査などに向けての目標設定も徐々に加えていきました。
 - ② 教師が子供の「苦手」を客観視し、目標を決める手助けをした！
自分に合った目標を設定し、達成に向けた計画を立てるためには、自分自身の苦手や弱点を客観的に見る必要があるため「難しい」と感じる子もいました。そのときは担任が児童と一緒にプレテスト等の結果を見て、一緒に計画を立てるようにしました。
 - ③ 数値化しない目標設定も取り入れた！
点数による目標設定を基本としましたが、自己採点をしたテストをもとに間違っただけの問題を意識させ、「次にそのような問題が出た時にはすらすら解けるようになる」というような、数値化しない目標設定も取り入れるようにしました。

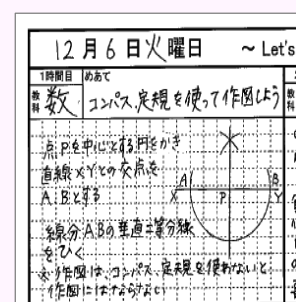


Q4 小・中学校で共通した「鍛ほめプロジェクト」の取組はありますか。

- A4
- 「ドリカムノート」を用いた家庭学習の取組を実施しています！
「ドリカムノート」とは、自己の夢を実現するための中間市統一の家庭学習ノートです。小学校版は、自己の課題を中心とした週末の自主学習を、中学校版は、毎時間の授業内容の整理、毎日の自主学習を行うノートとして使用します。最初のページには「将来の夢」「ノートを終えるまでの目標」を、最後のページには「学習の足あと(総時数)」を記すようになっていきます。また、自学の取り組み方も提示し、小中一貫して主体的に「目標を設定し、課題に挑み、自己の学習を振り返る」といったサイクルで学習できるように支援しています。



- <ドリカムノートの取り組み方>
- ① 机上进行整理し、テレビやスマホ等の電源を切り、集中できる環境をつくりましょう。
 - ② できるだけ決まった時間に取り組みましょう。
 - ③ 1~6時間目の教科名・めあて・学習内容を思い出しながらかきましょう。
 - ④ 思い出せない内容は、ノートや教科書を見ながら書きましょう。
 - ⑤ 理解できていない学習内容や定着させたい学習内容、日記等を自学ページに書きましょう。
 - ⑥ うまく思い出せない内容や理解不十分なところは、その日のうちにチェックしておきましょう。
 - ⑦ ドリカムノート以外の学習に取り組む、学習した内容を「その他の学習内容」欄に記録しましょう。
 - ⑧ 総学習時間を分単位で書きましょう(ドリカムノート時間 + その他の学習時間)。
 - ⑨ 自学に取り組んだ自己評価をしましょう。
 - ⑩ 明日の教科連絡を見ながら、翌日の準備を済ませ、学習後はできるだけ早めに就寝しましょう。



★ポイント

- 生徒が将来に向けた長期目標を達成するために、現在の短期目標を絶えず意識させることが大切です。生徒自身が短いサイクルで検証改善を行うことで、将来を見通しながらも、達成感を味わわせることができます。
- 小学校と連携し、小学校段階から「家庭学習強化週間」を設定し、目標を立て、挑み、振り返る活動を行うことで、このサイクルが習慣化します。

挑む活動

【基礎学力向上のための取組】

〈具体的な取組〉

- ① **全校生徒で取り組む補充学習「ちりつもタイム」**
 - ・ 毎週火・木曜日に、数学（「未来への一步」）以外のドリル学習に全校生徒での取り組む。
 - ・ 問題を解くときは、まず、個人で答え合わせを行い、その後、学び合い活動を行う。
- ② **オンライン教材を活用した家庭学習**
 - ・ オンライン教材を活用し、個に応じた家庭学習に取り組む。
 - ・ 教師はオンラインを使って、「いいね」ボタンやコメントで評価や称賛する。
- ③ **「未来への一步」を活用した計算力の定着**
 - ・ 月に一度設定された取組週間に「未来への一步」に取り組む。



★ポイント

- 定期考査や行事によって、取組を意図的・計画的に位置づけ、焦点化しています。
- 一部の生徒・教員だけでなく、全生徒・全職員で取り組みます。
- 学び合い活動（交流活動）を入れることで、生徒自ら学びに向かう態度が育まれます。

★ポイント

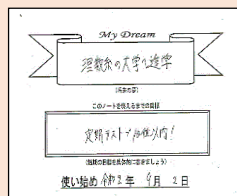
- 定期考査で目標に達しなかった生徒も、フィードバックテストを実施することで、理解不十分な内容を克服するとともに、「やればできる」という自尊感情も高まります。
- 学年集会の場で表彰することで、モチベーションの維持・向上につながります。

目標設定の活動

【定期考査等に向けての取組】

〈具体的な取組〉

- ① **ドリカムノート(中間市家庭学習ノート)の目標設定**
 - ・ ノートの1ページ目に「将来の夢・目標」と「1冊終了までの目標」を記入する。
- ② **定期考査の目標設定**
 - ・ 小中連携学力アップ事業の取組である家庭学習強化週間中に、前回の定期考査結果を基にした取組の目標を「エントリーカード」に記入する。
 - ・ 定期考査2週間前には、目標、具体的方策、学習計画を立て、学習内容等を毎日記録する。



	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日
	水	木	金	土	日	月	火	水
算数	5冊	2冊	5冊	5冊	15冊	2冊	15冊	3冊
国語	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊
英語	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊
理科	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊
社会	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊
総合	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊	7冊
合計	35冊	35冊	35冊	35冊	35冊	35冊	35冊	35冊

振り返る活動

【フィードバックテスト等の取組】

〈具体的な取組〉

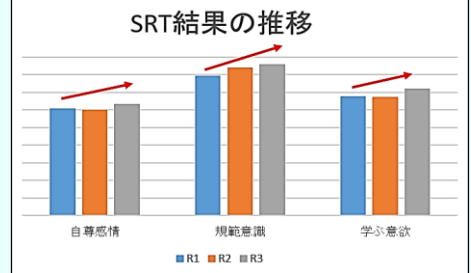
- ① **定期考査終了後のフィードバックテストの実施**
 - ・ 定期考査1週間後に、国・社・数・理・英の各教科20点、計100点の振り返りテスト「フィードバックテスト」を受ける。
 - ※ 教師は、確実に習得させたい内容を中心に、不正解が多かった内容等をもう一度出題する。
 - ※ 生徒は、フィードバックテストの試験範囲の内容を「ドリカムノート」を活用して学習する。
- ② **取組に対して称賛する場の設定**
 - ・ フィードバックテストで満点を取った生徒を学年集会等で称賛（表彰）する場を設け、生徒のモチベーションを維持・向上させる。



Q1 「鍛ほめプロジェクト」に取り組んで、子供たちにはどんな成果がありましたか。


A1

①「やればできる！」と考える生徒が増えた！
何事にも前向きに取り組もうとする生徒が増え、苦手な教科にも積極的に取り組む生徒が増えました。また、「わかった」という経験を繰り返すことで、自尊心や学ぶ意欲が向上しました。



② 苦手な学習に自ら取り組む生徒が増えた！
フィードバックテストを実施したことで、自らの誤答を見直したり、それをクリアするために積極的に自学に取り組んだりする姿が多く見られるようになりました。また、「未来への一歩」の取組を通して、理解不十分な問題が具体的に分かるようになり、間違った問題を進んで解き直す生徒が増えました。

③ 教師の鍛ほめメソッドの趣旨を踏まえた指導法の理解が深まった！
研究指定を受けたことで、これまで以上に鍛ほめメソッドの趣旨を踏まえた指導を意識するようになり、生徒たちが目標達成した姿を励みに、さらに発展した取組を考える教師が増えました。




Q2 挑む活動の取組の具体を教えてください。

A2

① 日々の小さな積み重ね「ちりつもタイム」を大切に！
日々の小さな積み重ねが何よりと、「ちりつも積もれば山となる」の精神で、「ちりつもタイム」と名付けた学習時間を設けています。生徒は、この時間を使って、単元末テスト等に出題される内容を自主的に学習します。また、課題が終わったら、教え合ったり学び合ったりする時間を設け、交流活動を行わせることで理解を深めています。

② 生徒会と連携した「ちりつもタイム」を実施する！
生徒会学習専門委員会と連携して、学習委員会が定期考査の予想問題を作成し、「ちりつもタイム」を使って学習しています。この取組も、解き終わったら、教え合ったり学び合ったりする時間を必ず設け、交流活動を行わせます。また、学習委員会が問題を作成するときは、必ず教科担任がアドバイスをを行い、結果に結びつくよう配慮しています。

③ オンライン教材をフル活用する！
一人一台端末 (iPad) を使い、いつでもどこでも、自分の力に合った学習教材を自由に選択し、取り組めるようにしています。生徒は、家庭学習や休み時間等にiPadを使って進んで学習しています。また、教師は、学習プリント等の準備を減らすことができるため、その分、生徒へ関わる時間が確保できるようになりました。

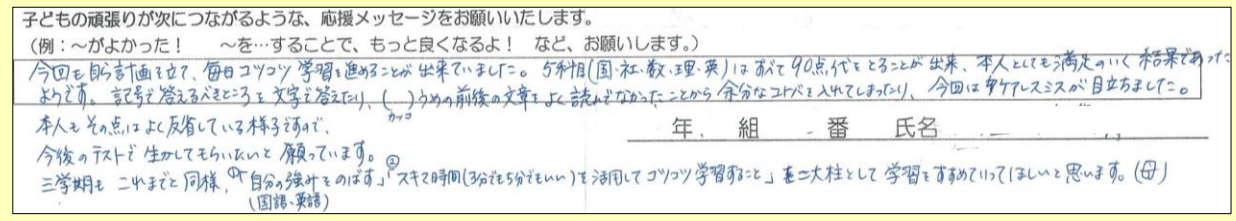


Q3 生徒を評価するときに気をつけていることは何ですか。


A3

① まずは「よさ」を見つける！
毎日のドリカムノート（中間市家庭学習ノート）の担任からのコメントは、何はともあれ「よさ」を評価するようにしています。生徒のよさを評価した上で、よさやがんばりが次につながるようなコメントを書くように気をつけています。また、保護者に対しても、エントリーカードに生徒のがんばりや学習に向かう意欲につながる称賛コメントやアドバイスコメントをお願いしています。

子どもの頑張りや次につながるような、応援メッセージをお願いいたします。
(例：～がよかった！ ～を…することで、もっと良くなるよ！ など、お願いします。)




② 生徒同士でよさを認め合える活動を取り入れる！
大人の評価だけでなく、生徒会を中心としてアンケート調査を実施し、生徒自らが選ぶ「がんばった人」を学期末の学年集会で表彰しています。友達からの評価を互いに得ることで、生徒同士の学ぶ意欲等が向上しました。



Q4 小・中学校で共通した「鍛ほめプロジェクト」の取組はありますか。


A4

○「ドリカムノート」を用いた家庭学習の取組を実施しています！
「ドリカムノート」とは、自己の夢を実現するための中間市統一の家庭学習ノートです。小学校版は、自己の課題を中心とした週末の自主学習を、中学校版は、毎時間の授業内容の整理、毎日の自主学習を行うノートとして使用します。最初のページには「将来の夢」「ノートを終えるまでの目標」を、最後のページには「学習の足あと(総時数)」を記すようになっていました。また、自学の取り組み方も提示し、小中一貫して主体的に「目標を設定し、課題に挑み、自己の学習を振り返る」といったサイクルで学習できるように支援しています。



<ドリカムノートの取り組み方>

- ①机上进行整理し、テレビやスマホ等の電源を切り、集中できる環境をつくりましょう。
- ②できるだけ決まった時間に取り組みましょう。
- ③1～6時間目の教科名・めあて・学習内容を思い出しながらかきましょう。
- ④思い出せない内容は、ノートや教科書を見ながら書きましょう。
- ⑤理解できていない学習内容や定着させたい学習内容、日記等を自学ページに書きましょう。
- ⑥うまく思い出せない内容や理解不十分なところは、その日のうちにチェックしておきましょう。
- ⑦ドリカムノート以外の学習に取り組む、学習した内容を「その他の学習内容」欄に記録しましょう。
- ⑧総学習時間を分単位で書きましょう(ドリカムノート時間 + その他の学習時間)。
- ⑨自学に取り組んだ自己評価をしましょう。
- ⑩明日の教科連絡を見ながら、翌日の準備を済ませ、学習後はできるだけ早めに就寝しましょう。

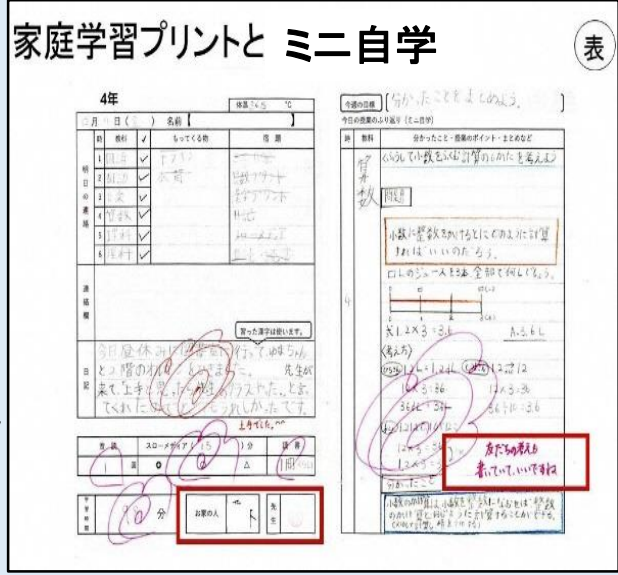


挑む活動

【家庭学習プリント・自主学習】

具体的な取組

- 毎日の家庭学習プリント
 - ・毎日、確実な提出
 - ・提出物の単純化
 - ・やり直しの徹底
 - ・ミニ自学
- 「自主学習」(ノート)
 - ・観点をもとに取り組む
 - ・保護者、教師からの励まし
- 「未来への一歩」
 - ・毎週金曜日「まなびタイム」で
 - ・前年度の内容から
 - ・やり直しの徹底



☆ポイント
保護者や教師の励ましコメント

☆ポイント
自主学習掲示
↓
モデル化
次の目標設定

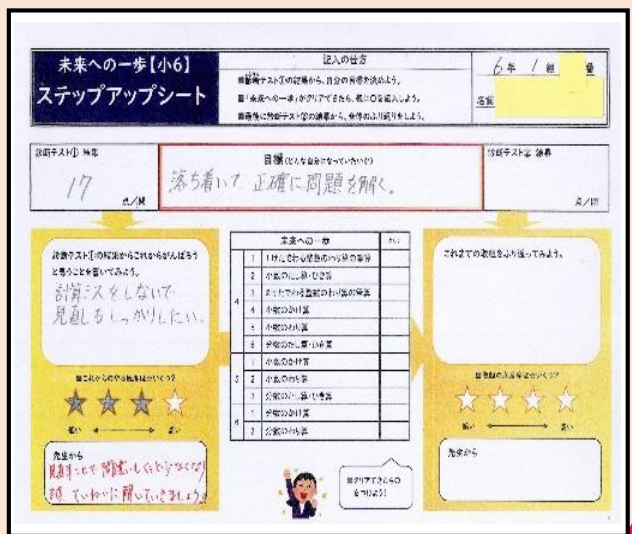
☆ポイント
過去の自分と
未来の自分で
目標設定

目標設定の活動

【未来への一歩ステップアップシートと学習についての質問紙の活用】

具体的な取組

- 診断テスト①、②の実施
 - ・「まなびタイム」で実施
 - 自己採点まで自分でする。
- 学習についての質問紙の実施
 - ・学校が目安としている家庭学習の時間と比較を行う。

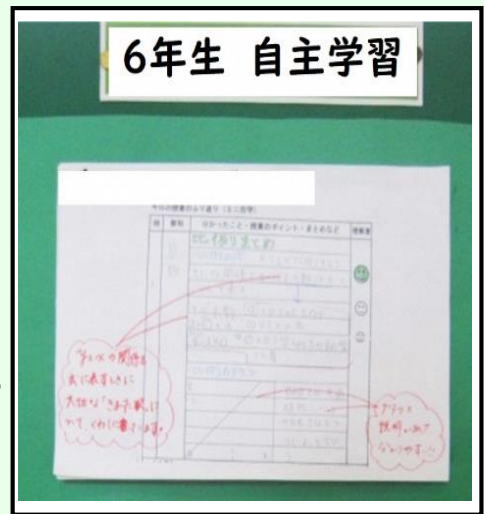


振り返る活動

【家庭学習強化週間と「自主学習(ノート)」の掲示】

具体的な取組

- 家庭学習強化週間
 - ・学期に一回、強化週間の設定
 - ・目標を振り返り、次の目標設定へつなげる。
- 「自主学習(ミニ自学・ノート)」の掲示
 - ・モデルになる自主学習を、どの学年も見ることができるよう、教室外のコーナーに掲示する。
 - ・自分の自主学習の改善点を次の目標設定へつなげる。



Q1 家庭学習プリントや自主学習を定着させるための工夫は何ですか？

A1 「家庭学習プリント」は、表裏1枚で構成し、表には、体温チェック、連絡帳という実用的な内容と、日記、音読、スローメディア、読書、ミニ自学という学習に関する内容。裏には、主に授業で学習している内容の算数問題や漢字練習ができるようにすることで、この1枚で家庭との連絡や宿題が完結します。

自主学習では、「テストやプリントのまちがいを生かした自学」「今学習していることを生かした自学」「前学年までの復習自学」「次の学習のための自学」の4観点で整理し、子どもたちが取り組みやすいようにしています。

Q3 自分たちの取り組む姿を振り返ったり称賛されたりする場合は、どのように設定しましたか？

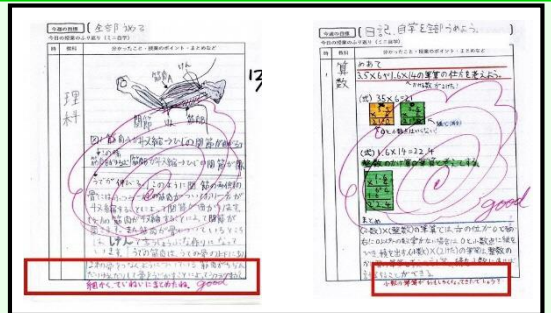
A3 「家庭学習強化週間」の取組では、実際に家庭学習で取り組みながら、「進んで取り組めたか」「自学はできたか」などの項目で振り返り、保護者や教師からの称賛を得るようにします。また、「自主学習」コーナーに掲示されることで、他の子どもたちのモデルになったり次の意欲や目標につながったりしています。



Q2 子ども達が意欲的に取り組み続けるための工夫は何ですか？

A2 家庭学習プリントは、「提出」、「チェック」、「やり直し」の流れを徹底し、やり遂げる達成感を味わわせるようにするとともに、必ず保護者の方の目を通してもらい、そこで保護者の方からの称賛をお願いします。

また、教師からたくさんの称賛コメントを書くことで、自己肯定感を高めるようにしています。

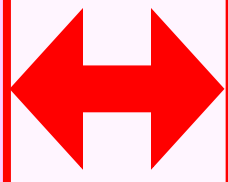


Q4 「未来への一歩」をどのように活用しましたか？

A4 毎週金曜日、10分間の朝の活動で活用しています。

実際の取組

- 毎週金曜日、10分間の朝の活動の中で設定
- 5分間程度で問題を解き、残りの時間で、答え合わせ・やり直し。最後に振り返り。
- 教師からの励ましのコメント



取組の効果

- 3年生から取り組むことで、早い段階からつまずきに気付くことができた。
- 下学年の、より簡単な問題に取り組むことにより、「できた」という達成感を味わうことができた。
- 頑張ればできるんだという自尊感情が高まった。

挑む活動 【「できた」を増やす】

具体的な取組

- ① 帯時間でのミニプリントの実施
 - ・ 苦手の克服
 - ・ 繰り返しによる定着
- ② プリントとじ込みによる積み上げの見える化
 - ・ 継続による量的充実感

ホッププリント 20枚 名前

1 次の計算をしましょう。

① $16 \begin{array}{r} 9 \\ 8 \\ 4 \end{array}$ ② $25 \begin{array}{r} 8 \\ 2 \\ 5 \end{array}$ ③ $18 \begin{array}{r} 3 \\ 7 \\ 9 \end{array}$ ④ $34 \begin{array}{r} 6 \\ 3 \\ 0 \end{array}$

2 次のローマ字を読んだり、書いたりしましょう。

① fuyu → (ふゆ)

② masaku → (ますく / くます)

③ tebukuro → (てぶくろ)

毎学期 (20枚 × 2回)

☆ポイント
 学期ごとのプリント
 (ホップ・ステップ・ジャンプ)
 内容の精選

☆ポイント
 「できそう」を
 感じる目標設定

☆ポイント
 量と質の高まりの
 可視化と称賛

目標設定の活動 【なりたい自分を見つける】

具体的な取組

- ① 「読み」「書き」「計算」における自分の課題発見 (レディネステスト)
- ② 「なりたい自分」と数値目標の設定
 視点：① 正答数
 ② 時間
 ③ 枚数

振り返る活動 【「できた」を実感する】

具体的な取組

- ① 「正答数」「時間」「積み上げの見える化」による「できた自分」の振り返り
- ② 次回の意欲を高めるための称賛 (コメント、プリント・テストから、できたことを掲示して)

「ホッププリント」20枚・2回を終えて・・・ ふりかえり
 7回目にできなかった時間内にはできるようになったのでよかったです。計算も正確に少しは解けるようになったのでよかったです。

「ステッププリント」30枚は・・・(こんな風に取組む!) 意欲化
 A問題正解もめざしてまちからやり方を聞いてちゃんとやり直したいです。

6年2組 できた!

苦手の算数のテストで100点をとれた。

50問テストの漢字を完璧に覚えることができた。

Q1 目標設定の際に気がつけたことは何ですか？

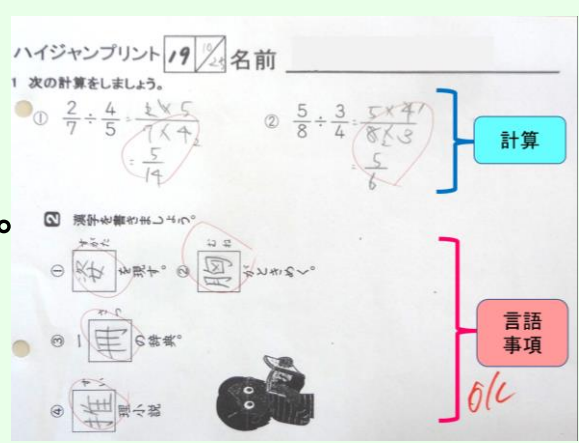
A1 次の2点に留意しました。

- ① 個に応じた称賛をしながら、教師と個人でゴール像を共有することが大切です。
- ② スモールステップで短期目標を設定していきます。
例) 漢字50問テスト90点以上
ミニプリントで計算全問正解 等

Q2 「できた」を増やすためにどのような工夫をしたのですか？

A2 ミニプリントの質と量の可視化です。

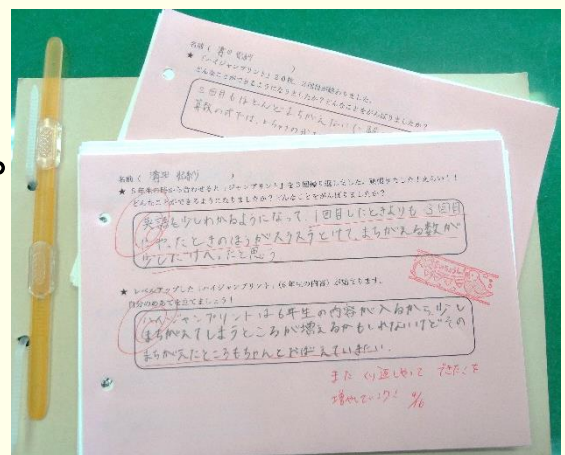
- ① 「計算」「言語事項」に限定して、難易度が上がる構成（ホップ・ステップ・ジャンプ）のプリントを作成。
- ② プリントを2回繰り返すことで「できた」を増やし自信につなげていきます。



Q3 「できた」を実感するためにどのような工夫をしたのですか？

A3 取組の成果を、質と量の2点で振り返る場を設定しました。

- ① 学期末テストを活用し、点数の伸びを実感させました。(数値による可視化)
- ② とじ合わせたプリントの厚みによる満足感を実感させました。(量による数値化)



Q4 未来への一步は、どのように活用すると効果的ですか？

A4 学期ごとの振り返りとしての活用が効果的です。

<実際の取組>

- ① 学期1回確認テスト
- ② 自己採点
解説・やり直し
- ③ 課題の意識化

↔

<取組の効果>

ミニプリントの問題に活用

- ① 自分の苦手意識の減少
 - ・ 空位のある除法
 - ・ 小数の除法
- ② 計算技能の習熟

挑む活動

【自主学习「宝の城ノート」への丁寧な支援】

具体的な取組

- 教師と生徒の話し合いによる課題決定
 - ・ 帰りの会で毎時間の振り返りを行う時から支援
 - ・ 学んだことを確認し、自主学习の課題を決定
- きめ細やかな助言
 - ・ 学習の進捗状況の丁寧な把握及び称賛



☆ポイント
C・D層への指導

☆ポイント
○授業との連動
○モデルの提示

☆ポイント
成果の可視化

目標設定の活動

【授業との連動】

【異学年による学び合い活動】

具体的な取組

〈授業〉

- 「毎日のあゆみ」(授業の振り返り)の活用
 - ・ 帰りの会の時間
 - ・ 一日の授業の振り返りを行い、自主学习のめあてを決定

〈学び合い〉

- 3年生による「宝の城ノート」のモデル提示
 - ・ 学級活動の時間
 - ・ 3年生が1年生に、目標の立て方や自主学习の進め方等を指導・助言

振り返る活動

【表彰状の贈呈と相互評価】

具体的な取組

- 額縁入りの表彰状授与
 - ・ 「宝の城ノート」年間3冊(A4判)を最低限の目標
 - ・ 3冊をクリアする毎に、帰りの会等で表彰
- 相互評価による改善点の確認
 - ・ 各自のノートの「よさ」に着目した相互交流





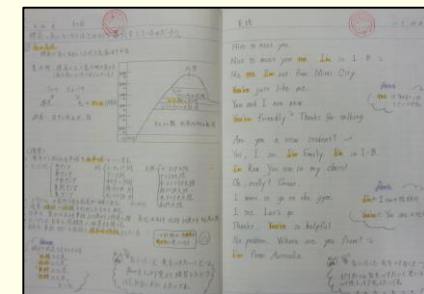
「チャレンジ！宝の城ノート」(自主学習ノートを生かした取組)

Q1 自習学習を効果的に行わせるためには、どのような工夫が必要ですか？

A1 多くの生徒は、中学校入学当初、自分の課題を明確にした自主学習にはまだ不慣れです。課題解決のため、何をどのように取り組むか明確にするために、1年時に自主学習の進め方等を指導しておく必要があります。
その際、自主学習に計画的に取り組んでいる3年生から指導してもらうことが効果的です。1年生にとってモデルとなり、3年生にとっては、自主学習の見直しにつながります。

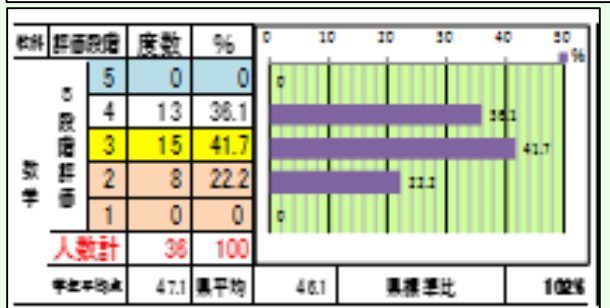
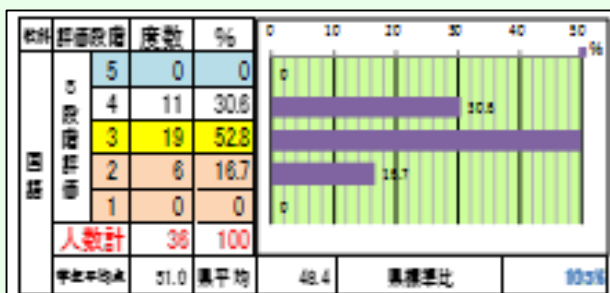
Q3 振り返る活動を次の目標設定に生かすには、どのような留意点がありますか？

A3 学期に1回程度の振り返り（短期スパン）と年に1回の振り返り（長期スパン）を設定します。学期に1回はノートの評価としてモデルを提示し、学習内容や方法の修正を行います。
目標を達成した生徒をしっかりと称賛し、次の意欲を喚起します。



Q2 C・D層の生徒が長続きしません。どのような手立てが必要ですか？

A2 学び方を身に付けるためには、授業を振り返らせるなど具体的な指示が必要です。
さらに、個人の課題に応じて「週末チャレンジ」として重点的に取り組ませるなど、徐々に自学の力をつけることが大切です。



Q4 「未来への一歩」の効果的な活用には、どのようなポイントがありますか？

A4

ポイント①

数学の公式は、ただ暗記しておくだけでは問題解決に利用できません。
様々な問題に合わせて公式を使えるように、「未来への一歩」を使い分けることが大切です。

ポイント②

年間を通して授業の開始時に取り組むことで、授業のスムーズなスタートを切ることができます。
また、既習事項の振り返りとなり、学習内容の定着も期待できます。

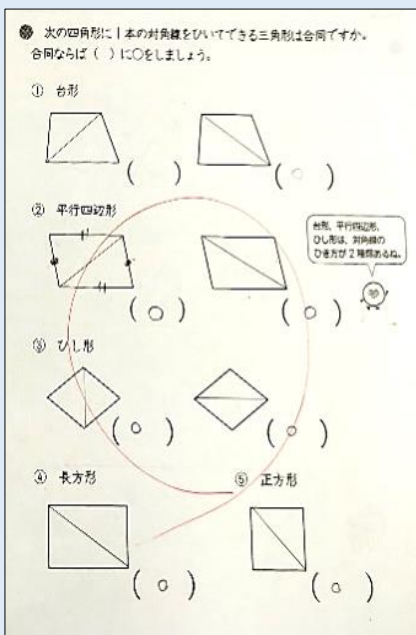
挑む活動

【予習を生かした授業で内容を理解する】

具体的な取組

☆予習学習
 本校では、一般的な予習に加え、次の時間の学習で考え方のヒントとなる内容や問題を解くために必要な既習の内容や技能を振り返ることも予習と位置づけている。

☆予習学習の内容例
 本時学習：「合同な平行四辺形」をかく
 予習学習：様々な四角形に対角線をひく問題や合同な三角形をかく問題
 予習をすることで、多くの子どもが短時間で間違いなく合同な図形をかくことができた。



☆ポイント

前学年までの既習の内容を出すことが考えられるため、教師も子どもも学年間や単元間の系統性を意識できる。

☆ポイント

テストの目標点はテストを行う前に書く。テストごとに書くため、目標点の変容から授業の理解度の変容が分かる。

☆ポイント

単元全体を見通し、子どもの最終像をイメージする。単元導入前に、単元テストの内容を確認する。

目標設定の活動

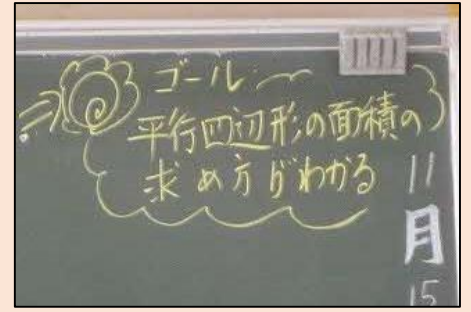
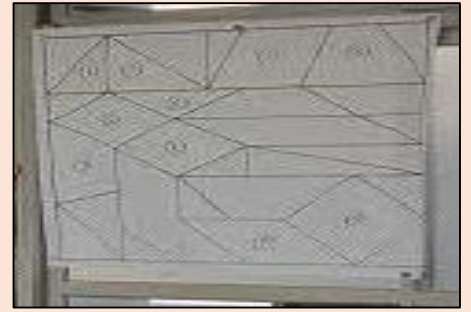
【本単元(本時)のゴールを理解する】

具体的な取組

☆ゴールの明確化
 (単元のゴールの明確化)
 様々な図形が入った陣取りゲームを見て、「やってみたい」「できるようにになりたい」と感じる課題を提示する。

(本時のゴールの明確化)
 「どんなことができるようになるのか」「何が完成するのか」などのゴール像を明確に伝える。

また、本時のゴール像を板書し、視覚的に示す。



振り返る活動

【授業後やテストの結果で苦手を克服する】

具体的な取組

☆本時学習後の振り返り
 めざすゴール像の達成を確認し、子どもに「できるようになったこと」を実感させる。

☆テスト結果を生かした家庭学習
 ・単元テスト時、子どもも教師も学習(指導)したことをもとにした手応えから目標点を記入し、実際の得点と比較分析する。
 ・理解や技能の習得が十分でない子どもに対しては、それを補うような課題(「未来への一歩」など)を家庭学習に出し、課題を見つけて早い段階でフォローアップの家庭学習につなげる。

	がい数	計算のきまり	わり算の筆算(2)	倍の見方	垂直平行四角(表)	分数(表)	分数(うら)
目標	90	50	0	0	70	40	50
とく点	62	82	0	0	95	40	80
先生	70	70	0	0	80	40	80

Q1 学力を上げるためにどんなことから始めましたか？

A1 本校では、子どもに正しい生活習慣を身につけさせることと規範意識や自尊感情を高めることから取り組むことにしました。

- ☆ 「早寝・早起き・朝ごはん」と家庭学習（生活習慣）
 - ・PTAとも連携、年に5回の重点週間を決めて実施する。
- ☆ 「北小キラリ！」（自尊感情）
 - ・子どもの日常のがんばり等の写真を全職員で撮り、校内に掲示する。

月/日	10/11(月)	10/12(火)	10/13(水)	10/14(木)	10/15(金)
朝ごはんを食べる	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分
朝ごはんを食べる	時 分	時 分	時 分	時 分	時 分
家で学習した					



Q3 予習をすることで、どんな効果がありますか？

A3 子どもたちは、家庭学習で予習学習を行い、本時学習に臨みます。

- ☆授業における子どもの姿
 - ・「昨日の宿題が使いそう。」と発言し、黙々と自分の考えを書く姿
 - ・学力D層児がスムーズに学習に取り組み、終末の練習問題で自ら発言する姿
- ☆系統性を意識
 - ・子どもも教師も学年間や単元間の系統性を意識することができる。



Q2 どのように授業改善をしていますか？

A2 本校が3年間取り組んできた授業改善の中心は、『ゴールの明確化』と『達成状況の振り返り』の位置づけです。

- 加えて2年目以降は
 - ☆ 「子どもに意欲をもたせる課題を提示」する授業の実践（2年目）
 - ☆ 「予習学習を生かした授業」の実践（3年目）
- 以上の取組を継続した結果、
 - ・単元テスト結果の得点の上昇
 - ・子どもの内容理解や技能習得の手応えから担任の目標点の上昇

単元テスト目標点及び得点表 (6年)				単元テスト得点の推移 (5年)			
番号	氏名	目標点	得点	番号	氏名	得点	得点
1		85	90	1		100	100
2		95	100	2		30	30
3		90	85	3		40	40
4		80	75	4		90	90
5		90	100	5		65	65
6		100	95	6		85	85
7		50	70	7		70	70
8		90	100	8		70	70
平均 82.5 80.0 92.5 85.6				平均得点 68.6 → 68.6 → 78.6 → 87.9			
担任目標 90 80				担任目標 65.0 → 70.0 → 80.0 → 90.0			

Q4 単元テストをどう活用していますか？

A4 教師は単元導入前に単元テストを見て、指導の在り方を確認します。

- ☆子どもと教師の目標点設定
 - ・テスト実施時に子どもも教師も自らの学習（指導）の手応えをもとにして目標点を立てる。
- ☆子どもの課題や理解度を分析
 - ・教師は採点后、できていない問題を明らかにしたり目標点と実際の得点を比較したりする。

- ☆個人票の配付
 - ・個人票に示されたこれまでのテストの得点の推移などから、子どもの伸びや変容をもとに称賛を行う。

	拡大図・縮図		円の面積		角柱・円柱 体積
	(表)	(裏)	(表)	(裏)	
目標	80	40	80	40	80
得点	78	40	100	50	85
先生	80	40	85	40	85



挑む活動

【自分のたてた目標に対する努力や工夫】


具体的な取組

《授業で》

- キーワードや小黒板を活用した説明や交流の場

《朝の活動や家庭学習で》

- 強化月間（計算「未来への一步」・視写・短作文）の設定
- 自主学习ノートや目指す子ども像の写真等の掲示と称賛



自分の考えを説明する様子

☆ポイント

成功体験の積み重ねによる次のチャレンジへの意欲の向上

☆ポイント

日常の学習や生活の場面で取り組みやすい目標を設定すること

☆ポイント

子どもの尺度で頑張ったことを他の子どもや教師が評価

目標設定の活動

【今の自分の実態に応じた目標設定】


具体的な取組

《授業で》

- 既習内容と課題のズレを把握
- 学習キーワードを使った目標（自己選択・自己決定）

《朝の活動や家庭学習で》

- 記録が残る個人ファイルの準備
- 家庭学習の方法や手本となるノートの紹介



家庭学習個人ファイル

振り返る活動

【目標に対する相互評価の場の設定】

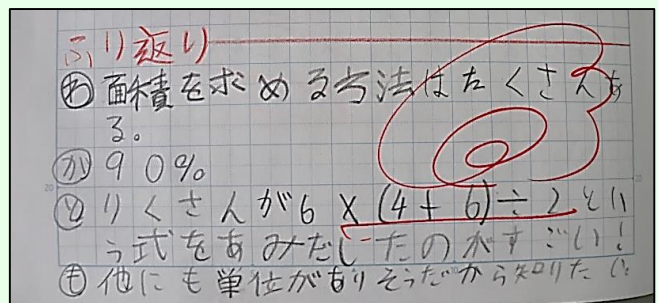
具体的な取組

《授業で》

- 終末段階での「わ・が・と・も」の振り返りと交流
- キーワードを使った学習のまとめ

《朝の活動や家庭学習で》

- 定期的な振り返りと自己評価
- 自主学习ノートに対する子どもの尺度での評価や称賛



学習の振り返り

Q1 褒める・認めるポイントについて

A1

大人の側の尺度で「褒める・認める」のではなく子どもの尺度で「褒める・認める」ことが大切であることを国立教育研究所「生徒指導リーフleaf18」をもとに確認しました。

つまり、本校の学習場面における「わ・が・と・も」は学習内容の振り返りはもちろんのこと、子ども自身が頑張ったこと、子ども目線で分かったことや気付いたことなども記載されています。それを、褒めて・認めるようなコメントをすることが大切です。また、この「褒める・認めるポイント」は、広く生活全般にも活用することができ、子ども達の自尊感情を高めるうえで有効です。

Q3 自己有用感を高める「きむろびじん」の取組について

A3

希望と夢に向かって道を切り開くために努力する子どもの育成を「きむろビジョン」としており、本校では、またの名を「きむろびじん」（目指す子ども像）として、子ども達にも、全校放送や写真掲示をし、友達のよさを紹介してきました。

この取組により、子ども自らが評価の主体となって、6年生の子ども会活動を中心に評価をし合うといった好循環を生み出しています。



「きむろびじん」の掲示

Q2 朝の活動、自学自習の取組について

A2

朝の活動の視写では、目標の文字数を決め、10分間書き進めていきます。前日に書いた文字数を上回ろうと集中して取り組むことができます。

家庭学習においても、自分の目標を立て、自分で決めた課題や得意な学習に取り組むなど子どもの尺度で頑張ったことを教師が評価することにより、学ぶ意欲を高めることにつながります。また、内容も深まりが見られるようになりました。



朝の活動(視写)

Q4 振り返り活動の位置づけについて

A4

振り返り活動では、生活場面でも積極的に行います。例えば掃除の場面での振り返りでは、友達の頑張りを見つけ、自分の頑張りに対して他者が評価を行う場を設定すると効果的です。「他人の役に立った」などの他者の評価でしか生まれてこない「自己有用感」の裏付けが必要となってきます。

そうじ はんせい しかた 掃除の反省の仕方

しゅうごうばしょ あつ はんせい おこな 集 合 場 所 へ 集 まり、反 省 を 行 う。

リーダー ぜんいん あつ 「全 員 集 まりましたか。」

そうじ はんせい 「掃除の反省をします。」

そうじ はし じこく じ ふん 「掃除の始まりの時刻(1時55分)に

そうじ はし 掃除を始めることができましたか。」

きょう ねんせい ねが 「今日は ○年生 お願いします。」

きょう ねが 「今日は○○さんお願いします。」

だ だまって掃除をしましたか。

い いっしょうけんめい に 時間いっぱい 掃除をしましたか。

す すみずみまで掃除をしましたか。

き きれいにしましたか。

みんなで 力を合わせて 学校をきれいにしよう。

そうじの振り返り



挑む活動

【自力解決するための活動】

具体的な取組

授業での取組

- 考えを書き表す授業 (自分の考えをイメージ化)

学年での取組

- 「北中ノート」を用いた自学の取組
- 新聞記事の読み取り活動



友だちからのアドバイス

☆ポイント

- 考えをもたせたり、整理しやすくさせたりする学習プリントや思考ツールなどの工夫。
- 周りの人からの支援。

☆ポイント

- 事象などの「問い」を視覚的に示す。
- 取組結果などを見せて、達成可能な目標を設定する。

☆ポイント

- 授業や帰りの会で振り返りの場面を設定。
- 頑張ったことや、できたことを「見える化」して称賛。

目標設定の活動

【目標をもたせるための活動】

具体的な取組

授業での取組

- 問いをもたせる授業 (視覚的な導入の工夫)

学年での取組

- 定期考査や学習コンクール等への目標作成



生徒の問いを生む課題提示

振り返る活動

【振り返りや頑張りを褒める活動】

具体的な取組

授業での取組

- 振り返りを意識した授業 (日常化へ)

学年での取組

- 北中ノートでの日々の振り返り
- 定期考査や学習コンクールの取組の称賛

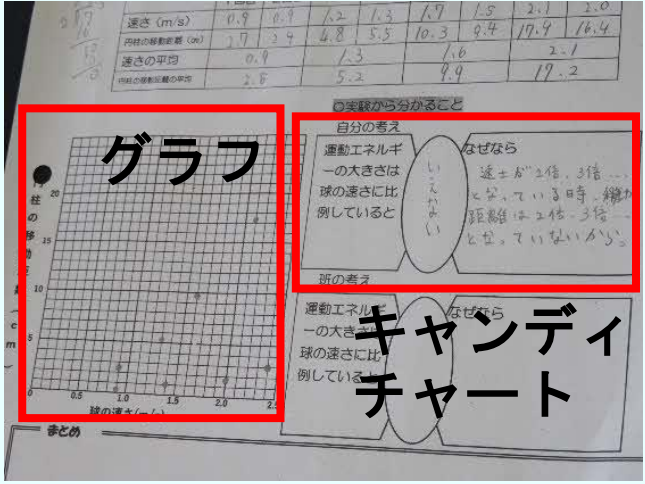


「見える化」して称賛

Q1 挑む活動（授業での取組） 学習プリント例とこの取組の成果は？

A1 右は理科の例です。表やグラフだけでなく、思考ツール(キャンディチャート)をのせ、考えを書き表しやすいようにしています。

成果については、授業アンケートで、右の結果が得られました。

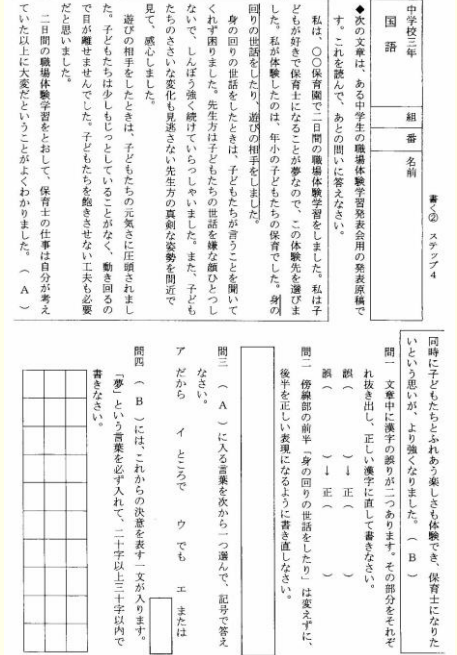


「あなたは自分の考えを書いている。」
3.27 (R2) → 3.38 (R3)
※現3年生、4段階尺度法による

Q3 挑む活動（学年での取組） 新聞記事の読み取り活動とは？

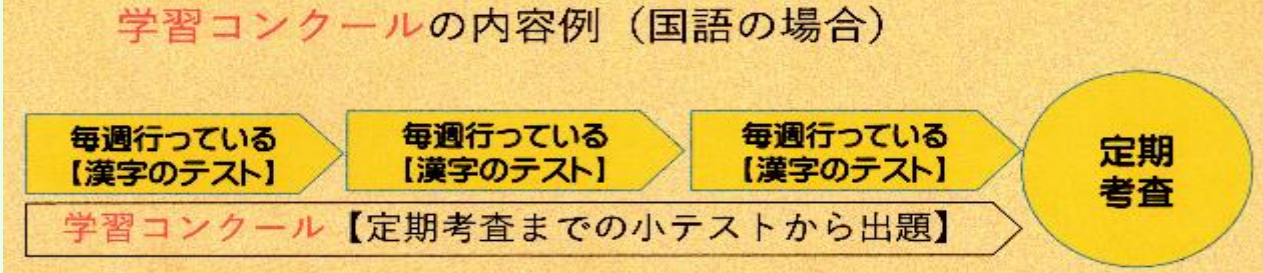
A3 右のようなテキストに週1回取り組ませています。時期や内容については、学年の実態にあわせて行っています。

どの教科でも、ある程度の長文を読み、その内容を理解することが求められるので、学年毎にこの取組を行っています。



Q2 目標設定の活動（学年での取組） 学習コンクールとは？

A2 基礎・基本の定着を図るために、生徒の実態などに応じて実施しているものです。定期考査の前に、基礎・基本を理解していることを称賛・評価し、生徒の学習意欲を高めるようにしています。

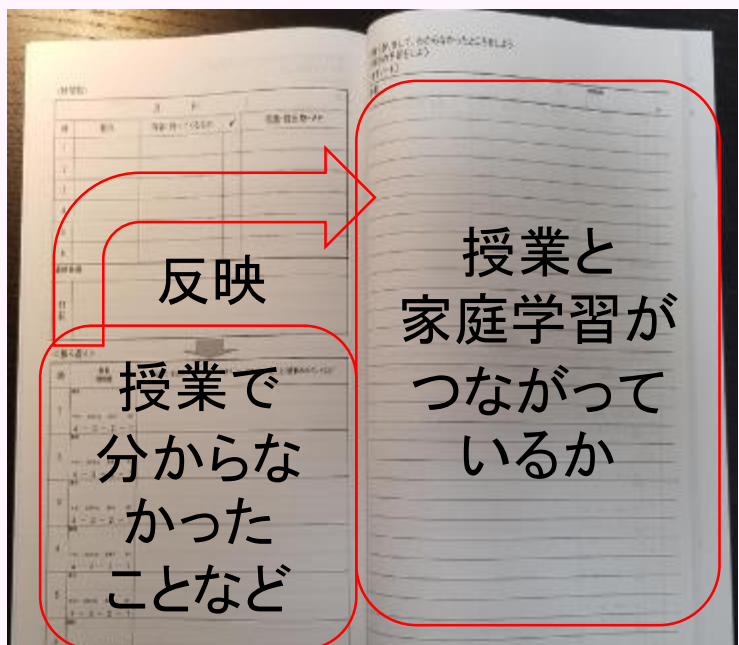


数学の学習コンクール:「未来への一歩」から出題

Q4 振り返る活動（学年での取組） 北中ノートとは？

A4 連絡帳と自学ノートを兼ねたものです。授業の振り返り(左側)とその内容を意識して学習させること(右側)をねらいとしています。

その都度、称賛やアドバイスを行います。




挑む活動

【 コンクールにチャレンジ 】

具体的な取組

- 毎週金曜日、漢字ユニットテストの実施
- 年2回の漢字コンクールの実施
- 「未来への一歩」を活用した年2回の計算コンクールの実施



R2. 11月 (5年生1回目)	R3. 2月 (5年生2回目)	R3. 11月 (6年生1回目)
22.5%	52.2%	92.7%

漢字コンクール習得率
80%以上の割合の推移
(現6年生児童対象)

☆ポイント
「未来への一歩」を
繰り返し活用

☆ポイント
実現可能な
目標設定


☆ポイント
組織的な取組

目標設定の活動

【 がんばりっ子計画の作成 】

具体的な取組

- 一人一人の現状にあった漢字ユニットテスト、漢字、計算コンクールの目標値の設定
- 目標値を設定する上での事前学習の実施
- 補充学習や家庭学習支援の充実
(パワーアップ学習やがんばりっ子教室の取組)




がんばりっ子教室の様子

振り返る活動

【 次につながる評価活動 】

具体的な取組

- 取組を通しての振り返りカードの記入及び評価
- 漢字ユニットテスト、漢字コンクール、計算コンクールの得点集計及び達成者への賞状作成
- 満点賞や優秀賞(90点以上)の児童への表彰



校長室での表彰式



研究協力校 福智町立 伊方小学校

『いい声、いい顔、いい心』学力向上プロジェクト



Q1 「がんばりっ子教室」とはどんなものですか。「鍛ほめ」との関連は？

A1

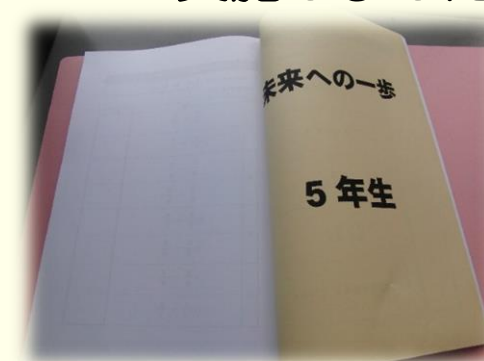
- がんばりっ子教室とは、地域学校協働活動事業（福智町教育委員会主催）として実施している**放課後の補充教室**です。
地域活動コーディネータと**地域ボランティア**がスタッフとして活動を支援しています。
- 「学ぶことに挑み続ける子どもを育む鍛ほめプロジェクト」の趣旨をスタッフ会議において説明し、**地域の方と連携**して「鍛ほめ福岡メソッド」に取り組んでいます。



Q3 『未来への一歩』の具体的な使い方を教えてください。

A3

『未来への一歩』は全学年に1冊ずつ1～6年生分をまとめ、配布しています。今年度はこれを用いて計算コンクールを実施しました。



計算コンクールでは、「その1」から出題。練習用として「その2」を活用しました。
・計算コンクール前の1週間は朝学習時に練習をしたり、宿題で何問かずつ出題したりしました。

Q2 漢字コンクールや計算コンクールの取り組み方はどのようにしているのですか。

A2 推進組織

→研修部学力向上係
(学力向上コーディネータ)

→教務担当主幹教諭や
研究主任と連携

漢字コンクール

問題作成及び印刷・採点
・賞状準備→**学力向上係**
採点基準（解答）
→各学年

計算コンクール

問題印刷・賞状準備
→**学力向上係**
問題作成・採点
→各学年

Q4 「鍛ほめ」研究協力校として3年間関わってきたの一番の成果は何ですか。

A4

児童の学習への関わり方、特に粘り強く取り組む姿勢が見られるようになってきました。

- 漢字コンクールや計算コンクールの時間に**集中して取り組める**ようになってきた。
- 日常の学習や家庭学習なども**粘り強く取り組める**ようになってきている。
- 「未来への一歩」学習アンケート「問2 目標を達成できるように粘り強く取り組む」の数値も**上昇傾向**にある。

5年生1回目68%→2回目67.3%→6年生1回目69.1%

挑む活動

【 自己の課題に応じた問題に挑戦！ 】

具体的な取組

- 自分のペースで問題に取り組むことができるように、自己の課題にあったプリントを選択させる。
- ※ 各学年廊下の棚に問題と解答を準備。



☆ポイント
つまづきへの支援と称賛の言葉かけを！

☆ポイント
テストをもとに、声かけを！

☆ポイント
グラフで視覚化！

目標設定の活動

【 自己の課題に応じた目標の設定！ 】

具体的な取組

- 自分の苦手な内容や課題に気づくように、前学期の学習内容に応じたテストを行う。
- 自己の課題に応じた目標を設定する活動を位置付ける。

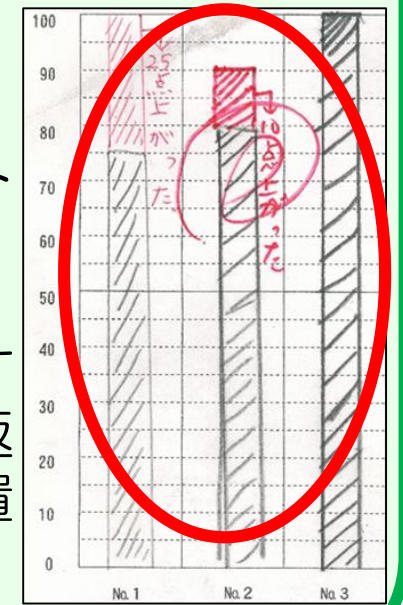
【目ひょう】 テスト (90)点	私はやはり体積の $1/3 = 1/3$ くらいなのが苦 手なので、チャレンジをいもよりたくさんしたいです。
【チャレンジ】	B(木)1,2,4,9
【チャレンジ】	A(丸)29,30,31,32,33,34,35
【ふりかえり】 テスト (100)点	最初のテストは90点だったけど、こんかいは 100点取れたので、チャレンジがいかにさしたんだ なと
発表から	すごい！ 努力の成果だね！！よかおめでとう！ お調子でテスト？

振り返る活動

【 伸びやがんばりを実感！ 】

具体的な取組

- 目標設定の際に行ったテスト（数値は変える）を実施する。
- ※ 点数の伸びをグラフに記入
- 自分の伸びや頑張りを実感することができるように、振り返りカードを記入する活動を位置付ける。





Q1 「未来への一歩」の効果的活用は？

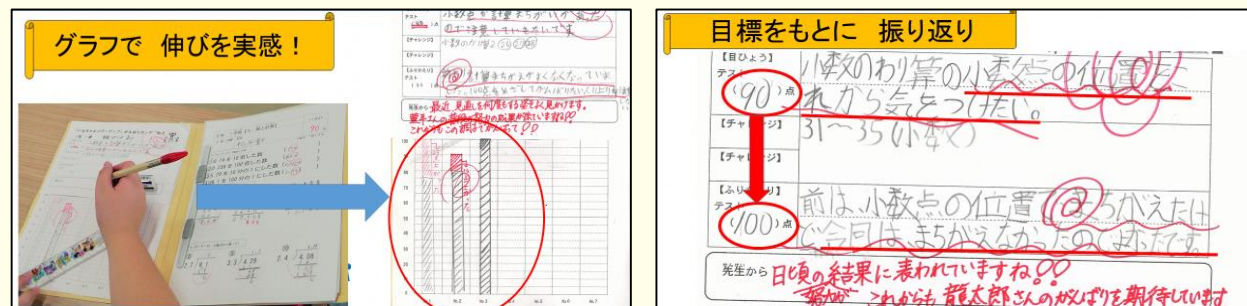
A1

「挑む活動」において取り組む問題プリントは、算数科全学年の内容を、領域別に系統立てて一覧表にまとめています。

計算領域については、「未来への一歩」の問題を活用し、1枚5分程で、繰り返し取り組むことができる内容にしています。

Q3 自尊感情を高める工夫は？

A3 テストの点数を棒グラフに記入したり、目標をもとにふり返りをさせたりすることで「自分もやればできた!」「頑張った!」という気持ちをもたせることができました。



Q2 学ぶ意欲を高める工夫は？

A2 週に一回、15分間の取組に、管理職も含め全教職員で支援を行います。励まみや頑張りに対して、積極的に称賛の言葉かけを行っています。



また、問題プリントを1枚クリアしたら学校のマスコットキャラクタースタンプが押せます。



Q4 プロジェクトの成果は？

A4 成果としては、以下の3点です。

- 計算のスピード、問題に取り組む集中力が増加した。
- 主体的に学習に取り組む児童の姿が見られた。
- 職員が一体となり組織的・計画的に取り組むことができた。



挑む活動

【学習計画表の作成・実行】

具体的な取組

- 学級活動の時間に考えた友達の学習方法や授業の受け方などを参考に作成
- 教師の称賛・助言を受けて家庭学習の計画・実行の見直し
- 目標を達成させるためにまとめた学習材や「未来への一歩」の類題（計算コンクール等）の実施



☆ポイント

モデルとなる
学習方法の紹介

☆ポイント

少し努力すれば
達成する数値を
記入

☆ポイント

保護者・
地域と連携

目標設定の活動

【My学力向上プランの作成】

具体的な取組

- 進路希望高校を、第1～3校まで記入
- 合格に必要な目標点と評定を記入
- 「未来への一歩」の目標、検定で合格したい級を記入
- 1年間を見通した到達度テストの目標点を1回目から6回目まで順を追って設定
- 各テスト終了ごとに、次回目標点を再設定



振り返る活動

【褒める、振り返る】

具体的な取組

- 校内で目標達成者の表彰、校内掲示
- 学校便りで保護者・地域に紹介
- My 学力向上プランにテスト結果の記入
- 「未来への一歩」の目標クリアを表に記入
- 学習計画・学習方法の振り返り
- 効果的な学習方法の紹介及び良いモデルを取り入れ改善



Q1 自己目標更新プロジェクトとは

A1 「自己目標更新プロジェクト」とは「My 学力向上プラン」の作成を通して、自己の設定した目標点数を達成するための計画です。

- ①学力向上プランに希望高校、目標点、目標評定、到達度テストの目標点数等
- ②学習計画表の達成と実行
- ③学習方法の支援と改善
- ④テスト結果や学習方法の振り返り
- ⑤称賛や改善方法の支援

Q3 取組を効果的に進める工夫点は

A3 ①目的・取組の意義の確認
 ②短い検証改善サイクル（年6回の到達度テスト）
 ③自己目標更新プロジェクトを5教科（国・社・数・理・英）から**全教科・学校行事へ拡充**



Q2 「未来への一歩」の効果的な活用は

A2

- ① My 学力向上プランに「未来への一歩」の目標数値を記入（見える化）
- ② 類題の取組の実施（計算コンクールとして）
- ③ 成果のあった個人・学級の表彰
- ④ 「未来への一歩」の評価テストの実施

「自分を越えろ! 自己目標更新プロジェクト」

MY 学力向上プラン

2年組 菅 氏名

1 進路希望	第1希望高校	第2希望高校	第3希望高校
高校名			
目標偏差値			
目標評定値			

2 学力向上目標設定
 (到達度テストは目標平均点・実力テストは目標偏差値、検定試験は目標とする級を記入)
 <到達度テスト> <評定> <実力テスト> <検定試験>

【2月】到達度テスト① 三学期評定合計 2月実力テスト 漢学検定

【1月】到達度テスト② 11月実力テスト 数学検定

【11月】到達度テスト③ 11月実力テスト 英語検定

【10月】到達度テスト④ 9月実力テスト

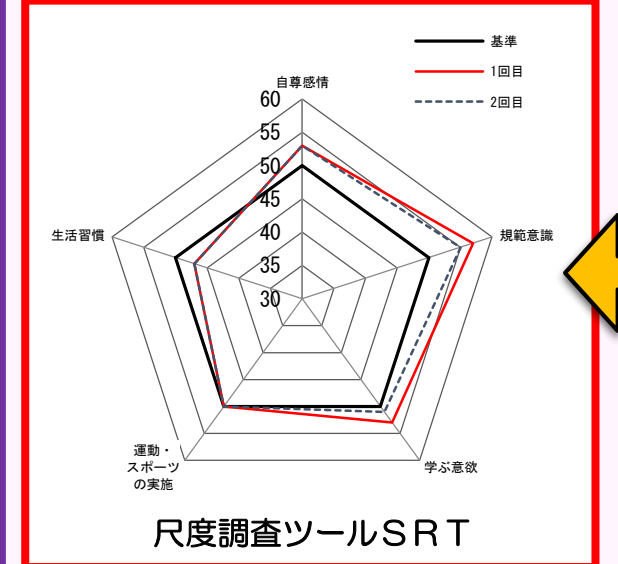
【9月】到達度テスト⑤

【7月】

My学力向上プランに「未来への一歩」の目標点を挿入

Q4 自己目標更新プロジェクトの成果は

A4



○3年間の取組の結果「学ぶ意欲」「規範意識」「自尊感情」が県平均50を大きく上回った。

○質問項目

- ・「目標を立てて計画している」
- ・「わたしは、友達がすることと同じくらいに色々なことができる」
- ・「わたしは、すべての点で自分に満足している」

→1年間で顕著な伸びが見られた。

挑む活動

【ワンアアップ自主学習にチャレンジ】

- 授業（主に算数）の振り返りをするとき、自主学習で取り組みたいことを書き、授業と自主学習をつなげる。
- 自主学習ノートのコピーを校内の自主学習コーナーや教室に掲示し、お手本となる自主学習の内容をいつでも参考にできるようにする。その際、全児童のノートのコピーを掲示することで、どの児童も達成感や成就感が得られるようにする。
- 自主学習ノートが1冊終わるごとに以前のノートと合わせて製本し、自己の成長を実感できるようにする。
- 教室に自主学習チャレンジコーナーを作り、学年の目標冊数に向けて、一人ひとりが参加していることや学級全員で挑んでいることを実感できるようにする。



☆ポイント

自主学習コーナーに保護者からの称賛コメントを掲示（ほめほめコーナー）することで、意欲の継続化を図る。

☆ポイント

自主学習コーナーに、全校目標や学年目標を掲示し、誰もが取組の目標や様子がわかるようにする。

☆ポイント

自主学習コーナーに、記念撮影した写真を掲示し、全校でがんばっていることが見えるようにする。

目標設定の活動

【自主学習の目標の設定】

- 自主学習の目標を内容面と年間達成冊数の2点で設定する。その際、まず学校全体の目標（①ていねいな字で書くこと、②びっしりとうめること）を設定した。それを受けて、各学年で必要な力を考えて学年目標を設定し、さらに個人でノート1冊ごとに目標を設定する。
- 2～6年生が個人の年間目標を設定するときには、昨年度の自分の自主学習ノートを見ながら行い、さらにワンアアップした目標になるようにする。
- 1年生は実態に応じて夏休み前後から取り組む。自主学習の目的ややり方を確認した後、漢字や算数の復習を中心に行う。
- 主題研究の学級活動（3）-ウにおいて、自主学習に関する内容を取り上げ、モデルとなる上学年のノートを見ることで、どんなことを頑張っていきたいかの具体的な目標を立てる。



振り返る活動

【1冊ごとに自主学習を振り返る】

- 自主学習ノートが1冊終わるごとに、校長室で表彰、記念写真の撮影を行い、次のノートを配布する。終了した自主学習ノートのおすすめのページを紹介したり、次のノートで頑張りたいことを宣言したりすることで、意欲の継続化につなげる。
- 自主学習ノートに貼っている目標を書いた紙に、ノートを終えての感想及び次のノートで頑張りたいことを記入する。さらに、保護者からもコメントをもらい、自主学習の頑張りを称賛してもらう。
- 主題研究の学級活動（3）-ウの授業と関連づけて、次のノートで取り組みたいワンアアップした内容を決める。





研究協力校 行橋市立 仲津小学校

「ワンアアップ自主学習プロジェクト!!!」



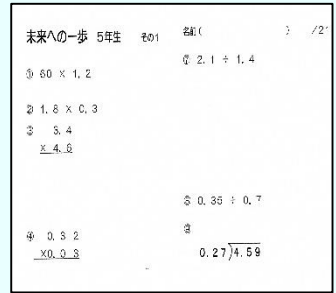
Q1 「未来への一步」はどのように活用していますか。

A1 「未来への一步」を2種類用意し、活用できるようにしています。

1つは、配布された「未来への一步」を印刷したものを一人ずつファイルに入れたものです。授業の最後や習熟の時間などに、問題を見ながら別紙に答えを書き、何度も練習できるようにしています。

2つは、「未来への一步」の問題を書き込み式にまとめたものです。問題用紙にそのまま解答を書くことができるため、各学年の問題を一気に解き進めることができます。朝の学び直しタイムや習熟の時間などで活用しています。

また、苦手な問題は自主学習で取り組むなど「未来への一步」と自主学習をつなげるようにしています。

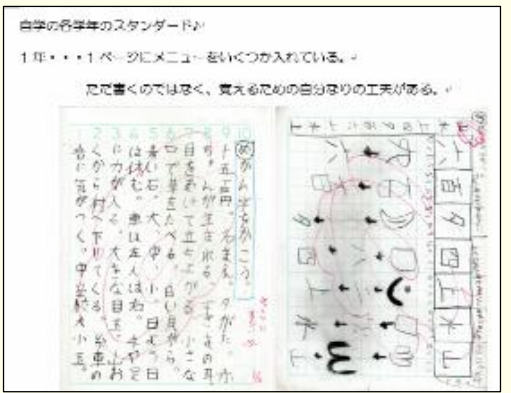


Q3 教職員の協働体制づくりはどのようにしていますか。

A3 自主学習の研修会を行いました。自主学習でどんな力を付けさせたいのか、どんな内容だといいのか、各学年でどのようなことができているのか、などを全員で考えることで、本校の自主学習のねらいを共有することができました。

また、各学年の自主学習のめあてを年度当初に考え、系統性が生まれるように職員間で確認しています。

さらに、各学年のねらいに即している自主学習ノートを出し合い、具体的にどのような内容をよい内容とするのかについて共通認識ができるようにしました。そして、全学年のねらいとする自主学習ノートを仲津小自主学習スタンダードとして設定し、全教職員が持つことで、いつでも見直して指導に生かせるようにしています。



Q2 家庭との連携はどのようにしていますか。

A2 学校通信や学校メール、公民館だよりにおいて、全校で自主学習に取り組んでいることや、鍛ほめの活動について紹介しました。どのような取組をしているか理解いただくことで、自主学習への関心を高めてもらえるようになりました。

学習参観などの機会には、たくさんの保護者が自主学習コーナーに立ち寄り、子どもたちの頑張りを実際に見てくださいます。また、自主学習コーナーに、保護者から褒め言葉を貼っていただくほめほめコーナーを作りました。参観後にはコメントを読みに来る児童も多くいます。

さらに、1冊終わるたびに、自主学習ノートに貼っている1冊の目標と振り返りを書く紙の一番下にある保護者のコメント欄に児童の頑張りに対するコメントを書いて頂いています。その1冊でどのようなことを頑張ったか日頃の家での取り組み方も含めてコメントをくださっているので、児童の意欲化につながっています。



Q4 自主学習コーナーはどのようなものですか。

A4 誰もが見やすいように、校内の1階に設けています。鍛ほめの理念や全校目標、学年目標、自主学習ノートコーナー、中学生の自主学習ノートコーナー、校長室での表彰の写真、子どもたちの自主学習を製本したもの、保護者からのほめほめコーナーなど、内容は豊富です。

児童も休み時間等に自主学習コーナーに立ち寄り、自分や友達の自主学習ノートや表彰の写真などを嬉しそうに見ています。

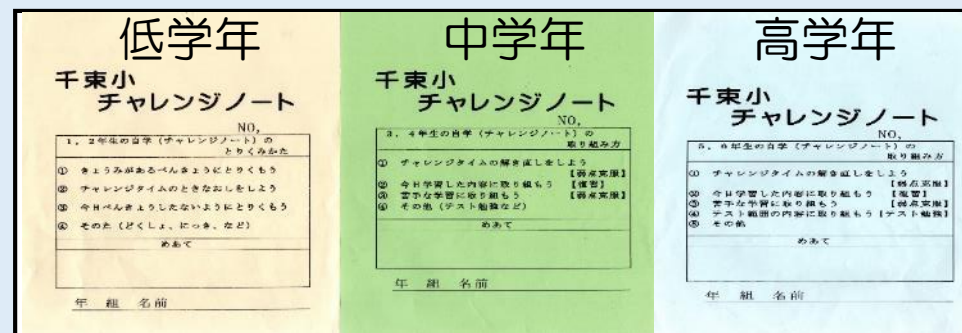




挑む活動(鍛える) 【千束小チャレンジノート】

具体的な取組

自主学习で取り組む内容は、チャレンジタイムの問題の解き直しや苦手な学習、テスト範囲の内容、復習問題など、発達段階に応じて取り組む。毎日、担任がチャレンジノートの丸付けを行い、振り返りカードをチェックする。



☆ポイント

チャレンジノートの内容は、低・中・高学年の発達段階によって分ける。

☆ポイント

低学年は、教師が2人体制で、採点や目標設定の助言を行う。

☆ポイント

教師や保護者の励ましのコメントを記入する。

目標設定の活動(鍛える) 【千束小チャレンジタイム】

具体的な取組

朝の15分間を算数科、国語科の学習の時間として「千束小チャレンジタイム」を設定。教材は「未来への一步」「県学力調査問題」「標準学力調査問題」、タブレットドリル等を活用し、10分間で問題を解き、採点をして残り5分で解説、解き直しを行う。(中・高学年)

「チャレンジタイム」で間違った問題や苦手な問題等、自分の課題を把握し、次の「チャレンジタイム」に向けての自主学习の内容や方法を自分で決定する。



振り返る活動(ほめる) 【自主学习の振り返りカード】

具体的な取組

振り返りカードには、取り組んだ内容を書き、取組番号、評価は記号で記入し、継続できるように簡略化する。

週に1度、自主学习の振り返りを書き、保護者にもノートを見てもらい励ましのコメントを書いてもらう。さらに学び方の向上や意欲の高まりをねらい、教師も評価やねらいに即してコメントを書く。

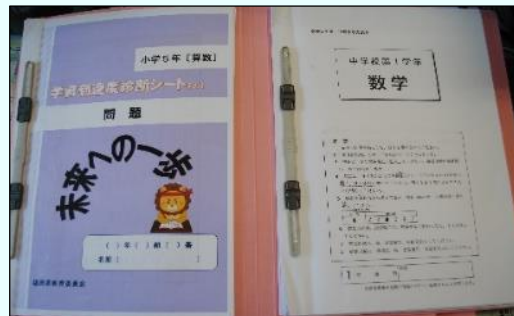
日付	取り組んだ内容	評価	取組番号
11/29	テスト勉強	A	103
12/1	国語の復習	A	103
12/2	国語の復習	A	103
12/3	国語の復習	A	103
12/4	国語の復習	A	103
12/5	国語の復習	A	103

今週の振り返り
テスト勉強やテストでよかったところの復習をすることができました。
国語の復習も社会・漢字の復習もできていました。
おうちの方から一言
毎日休みながら がんばっています。
7.0の1ヶ月 漢字が11/185
うれしかったので休みの日に復習



Q1 「未来への一歩」の効果的な活用のポイントは？

A1 「千束小鍛ほめチャレンジ」は、朝のチャレンジタイムに「未来への一歩」等を活用して全校で取り組んでいます。担任と2人体制をとり、低学年は教師が採点を行い、中・高学年は自分で採点をし、自分の課題を把握します。その課題を自学で直し、今後の意欲の高まりにつなげています。



Q3 学ぶ意欲を高めるための人材活用のポイントは？

A3 サッカーと陸上の実技講習会を通して、子どもの学ぶ意欲・学び方の向上をねらっています。指導者から、実技指導を受け、できたことを褒められることで、モチベーションも上がり、技能の向上や心の育ちに役立っています。また、講話を聞くことで、日々の練習や努力をすることの大切さを学ぶことができます。



Q2 鍛ほめの活動に係る学校の環境整備は？

A2 「自主学习」や「算数クイズ」コーナーを設置しています。

「自主学习」コーナー

良い学び方のチャレンジノートを見ることにより、意欲の高まりが見られ、良い学びへのきっかけになっています。

「算数クイズ」コーナー

頭の体操になるクイズを掲示し、児童が算数に興味・関心を持ってクイズを解いています。

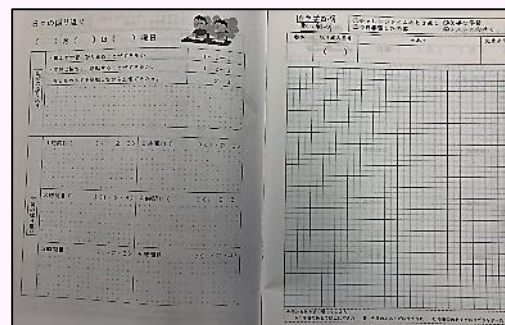


Q4 中学校との連携のポイントは？

A4 チャレンジノートのステップアップ

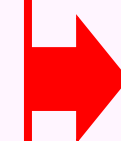
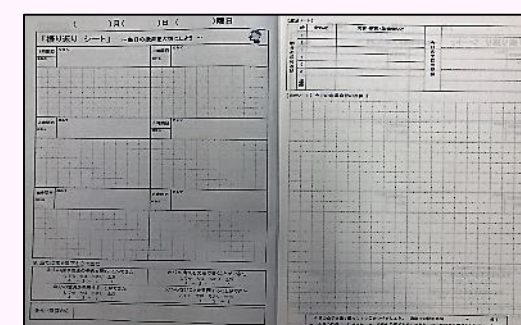
千束小チャレンジノート

6年生の3学期は、千束中学校の「CUノート」を参考に作った自学ノートに取り組みます。



千束中CUノート

小・中学校で形式を合わせることで新1年生は、CUノートにスムーズに移行できます。



挑む活動

【毎日取り組むChizuka Up Note】

具体的な取組

- 「CUノート」に毎時間の授業の振り返りを行う。
- 自学の欄に目標を書き込み、その達成のための自主学习を計画的に行う。
- 毎朝「CUノート」を提出し、全教員で点検を行い、未提出や記入の不十分な生徒はやり直しを行う。

「振り返りシート」 ~毎日の授業を大切にしよう~

1時間目 めあて 理科 顕微鏡の使い方を学ぶ。	2時間目 めあて 美術 鉛筆のさまざまな使い方を知り、デッサンに使おう!
①顕微鏡を見る時 ②対物レンズをはめる。 ③目鏡レンズをはめる。 ④視野を明るくする。 ⑤プレパラートを置く。 ⑥蓋から見て対物レンズをプレパラートに近づける。 ⑦対物レンズをのぞきながらピントを合わせる。	ものの形や明暗を観察して、鉛筆などの色の描画材で正確に描くこと。毛筆描(デッサン)といいます。 身の回りにあるどのようなものでも描く対象の特徴や質感をしっかりとらえ、よく描く。描いてみましょう。 鉛筆をぬかして持つ。(大きく書くとき)

★ポイント
「継続は力なり」
「凡事徹底」

★ポイント
オリエンテーション
& 中長期的な
目標設定

★ポイント
自己評価と
コメント

目標設定の活動

【短期目標と中長期的な目標】

具体的な取組

- 新学期にオリエンテーションを行い、やや困難な目標をもって取り組むように意識付ける。
- 「CUノート」の裏表紙に中期・長期的目標を書き込ませ、ノートが一冊終わるごとに更新する。

Chizuka Up Note

転校関係の仕事

高校に進学する

無遅刻・無欠席・CUノート合格

自分が見ても、お母さんが見ても、分かりやすく内容をきちんとまとめる。

休日は学習の進捗や、1日3食などを心掛けてきちんと生活リズムをくずさないようにする。

振り返る活動

【自己評価とコメント】

具体的な取組

- 授業の振り返りを4段階で自己評価をする。
- 取り組んだ時間と併せて自学の達成状況を3段階で自己評価をする。
- 教師と保護者はコメント欄に励ましの言葉を書く。
- 授業の振り返り欄や自学の欄の効率的・効果的な書き方を助言する。

※ 当てはまる数字を○で囲む。

先生の話や友達の発表を聞くことができ とても 大抵 あまり 全然 4 - 3 - 2 - 1 ④
自分の意見を発表することができた とても 大抵 あまり 全然 4 - ③ - 2 - 1

今日の自学を振り返って1つ0をつけましょう。 家庭での開始時間 18:00 ~ 19:10 終了

◎ 今日の目標以上にできた B: 今日の目標どおりにできた C: 今日の目標どおりにできなかった

先生・家庭から

今日の振り返り、経過がわかるように、お母さんにもわかるように書いてください。
1つ0をつけたら、お母さんにもわかるように書いてください。

Q1 「未来への一歩」の活用のポイントは？

A1 活用にあたって、全問正解であれば次に進み、全問正解するまで、同じ問題に取り組むようにしています。

そこで、どれだけの人かどこまで進んでいるか、自分はどの位置にいるのかを確認するために、写真のような掲示をし、学年の内容が終われば修了証を渡しています。

段階	内容	チャレンジ	人数
1	正の数・負の数 (加減)	1にチャレンジ中	1/0
2	正の数・負の数 (乗除)	2にチャレンジ中	2/0
3	正の数・負の数 (四則)	3にチャレンジ中	0/0

Q3 教職員の協働体制づくりのポイントは？

A3 毎朝、提出された「CUノート」を複数の職員で点検して、未記入や乱雑な部分がある生徒には昼休みにやり直しを行わせています。

そこで、教師による評価基準をそろえるため、朝の会后、複数の教員で合議して評価するようにしています。

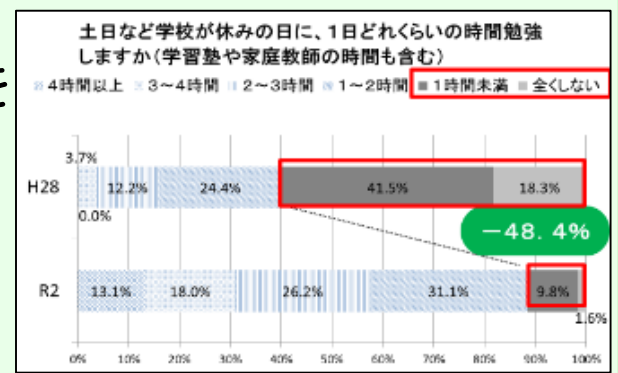
また、学期ごと研修を実施し、共通理解を深めています。



Q2 「CUノート」の取組の成果は？

A2 「CUノート」を始めたきっかけは、5年前の全国学力・学習状況調査で、土日にもまったく勉強しない生徒が60%もいたことです。

生徒指導に追われて、家庭学習まで指導が回らなかったことから、「CUノート」の取組を始めたところ、勉強しない生徒の割合が大幅に減少し、次第に学校も落ち着きを取りもどしました。

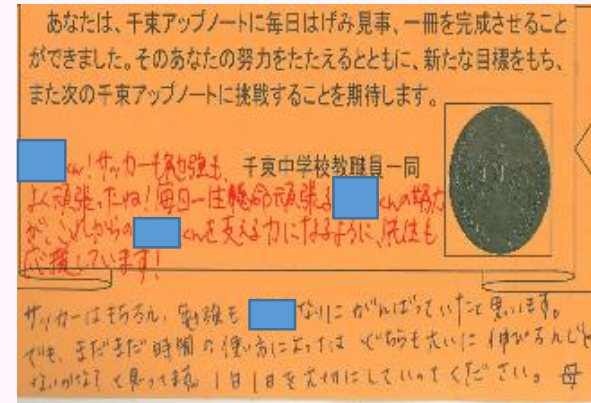


Q4 達成感をもたせ、継続させるポイントは？

A4 「CUノート」1冊終了毎に、頑張った自分にメッセージを書き、校長先生からシールをもらって、達成感を高めるようにしています。

また、保護者会で説明し、点検やコメント記入の協力をお願いしています。

さらに、学年通信等で「CUノート」の頑張りを保護者や地域に伝えています。



研究のまとめ

鍛えて、ほめて、子どもの可能性を伸ばそう!





1 めざす児童・生徒像がはっきり!各校の目標にあったカリキュラム・マネジメントが実現

コロナ禍でありながら、各校で目標（めざす児童・生徒像）を明らかにし、その実現に今何をすべきか考え、大きな危機を乗り越えるために一致団結した教師。結果、鍛ほめの実践は大きく前進しました。めざす児童・生徒像を各学校で共有し、その実現に何ができるかを問い続け、教育実践に向かっていく。チャレンジする学校・教師が、子どもたちのチャレンジを引き出すのです。めざす児童・生徒像の明確化が、学校改善の第一歩といえそうです。

2 PDSマネジメントサイクルの進化形?鍛ほめGCR(目標設定、チャレンジ、リフレクション)サイクルの確立!

鍛ほめに取り組むと「目標設定の活動」「挑む活動」「振り返る活動」という学びのサイクルがぐるぐる回転し始めます。計画(P)よりもその前提となる目標設定(G)、実行(D)よりもチャレンジ(C)、評価(S)よりも次の見通しが持てるような振り返り(R)が強調されていることがポイントになるようです。特に、目標設定や振り返りを工夫することで、チャレンジが引き出されることが実践校の取り組みからわかります。

3 学習者の学び方が変わる!苦手の克服+得意の伸長、個別最適な学びが実現!

子どもたちは様々な活動にチャレンジしました。子どもたちのチャレンジは「苦手の克服と得意の伸長」の2種類に分けることができます。これは、令和の日本型学校教育の個別最適な学びで実現すべき学びの姿と一致します。自ら学習を調整し、学習内容の確実な定着(苦手の克服)、学習を深め、広げる(得意の伸長)。そのような学びを支援するためのシステム「鍛ほめ福岡メソッド」は、いち早く令和の日本型学校教育を実現した取り組みといえます。

実現したい！目標に向かってチャレンジし未来へつなげる子どもたちの姿

Goal setting

- 一人ひとりが自己ベストを更新できるような目標を持つことができる

Challenge

- 失敗しても試行錯誤を繰り返しながら、自らの問題解決に挑むことができる

Reflection

- 反省で終わらない！次の一歩の見通しを持てるような振り返りができる

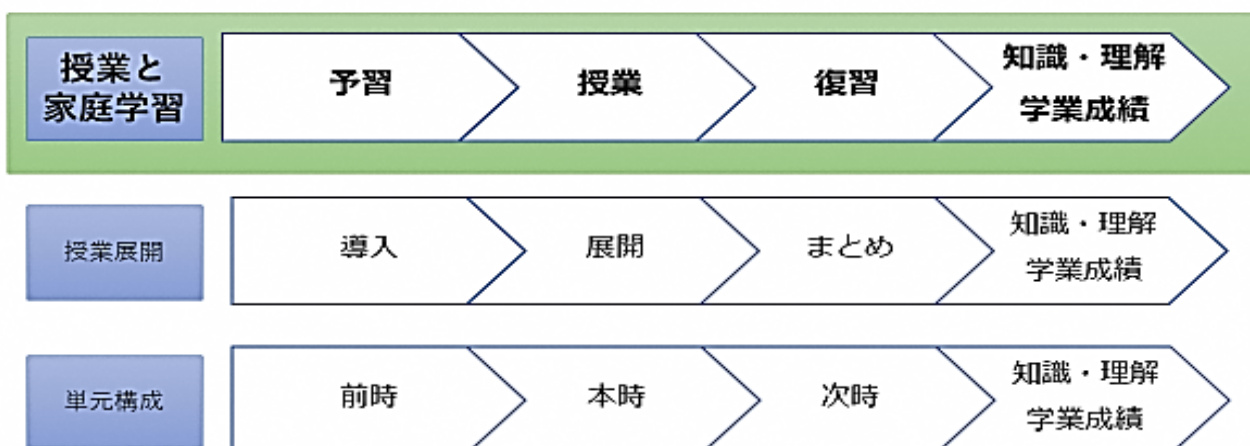
鍛ほめには、学級経営の充実が不可欠です

子どもたちのチャレンジを実現するには、一人ひとりが自分の目標に安心して取り組めるようなみんなで頑張れる学級を実現していくことが求められます。

鍛ほめプロジェクトの取り組みで見えてきたのは、まさに原点回帰、学級経営の充実でした。

予習-授業-復習という学習サイクルへ家庭学習を含めた学び方の変化

これまでの授業改善で充実してきた授業中の学習過程だけでなく、授業外の学びも含めた学習過程の改善がこれからのスタンダード。



参考：篠ヶ谷圭太 2012 学習方略研究の展開と展望 - 学習フェイズの関連づけの視点から - 教育心理学研究, 60, 92-105.

これからの取り組みに期待されること

- めざす児童・生徒の実現に向けて、各校の様々な取り組みが組み合わせられ、子どもの可能性を引き出す学びの環境が創出される。
- 鍛ほめのGCRサイクルが授業と連動し相乗効果が生み出され、学力向上(認知能力の高まり)、さらに、子どもたちの非認知能力の高まりが実現。
- 失敗しても成功しても、くじけずに次のチャレンジに一步踏み出せる子どもの増加。

～学ぶ意欲や自尊感情を高めるには～

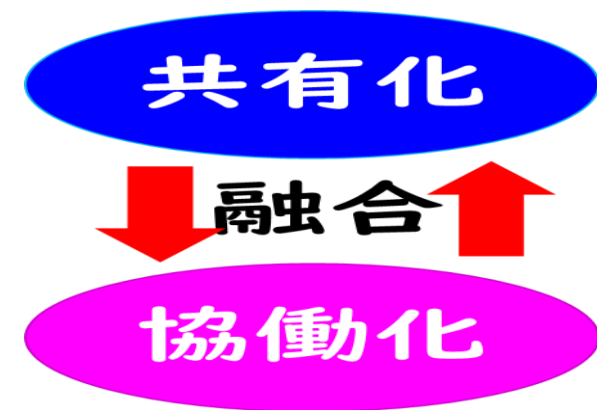
福岡教育大学 教職大学院 特任教授 芋生 修一



1 効果的な学力向上の取組には、学校体制（組織化・チーム化）の確立が重要である！
・校長を中心に目標達成のため一丸となっている姿が見られ、共有化と協働化が融合した。

学力向上（学ぶ意欲）を達成するために、学校が一丸となって組織的に取り組む姿と共に、その中で教職員各々に教師としての指導力量の高まりが見られてきました。すなわち、学校力が高まり学校のチーム化が具現化されました。

学校力 = 教師力 + 組織力 → **学校のチーム化**
(→ チーム学校)



2 意欲的な学力向上の取組には、児童生徒自らの必要性・意義の理解が不可欠である！

教師間の共有化と協働化だけでなく、実際に取り組む児童生徒間の共有化と協働化が必要です。特に価値への共有化を行うと効果的です。そのためには、ガイダンスとリフレクションを実施することが大切です。

共有化 目標, 方法, 価値

なぜ、そのような活動をするのか？
そのことは、どんなよさがあるのか？
そうすると、どんなことが起こるのか？

3 各学校の実態把握による特色化・個性化や重点化を支援する各教育委員会の指導体制と先導性（リーダーシップ）の発揮が大切である！

学校のチーム化を具現化する

学校力が高まり学校のチーム化が具現化するには、共有化と協働化の融合が必要です。共有化には、目標・方法・価値の共有化が必要であり、協働化には、役割分担・他者からの期待感・自己有用感を実感させることが大切です。

共有化

融合

協働化

目標…何をめざして行うのか??
そのゴール像は??
方法…どのように行うのか??
いつ行うのか??
価値…なぜ行うのか??
そのよさは何か??

役割分担…誰が何を担うのか??
責任所在はどこに??
期待感…他者評価や励ましは??
得られた快感情は??
自己有効感…組織のために役立っている実感は??

学力向上に関する取組のガイダンスとリフレクションの行い方

◎ガイダンスでは、取組のよさの自覚や見通しをもち、児童生徒の実践意欲の向上と内容充実をねらいとする。

○レリバンス=意義の理解

- ・なぜ、そのような取組や活動を行うのか?
- ・その取組や活動には、どんなよさがあるのか?
- ・その結果、どのような姿になるのか?
- ・どんなよいことが起こるのか?



- ◎取組（活動）のめあての設定・見通しの自覚
- ◎ゴール像の明確化
- ◎取組の方法・条件の具体化

◎リフレクションでは、取組のめあてに沿った振り返りと、取組のプロセスや結果に対する評価・価値付けをねらいとする。

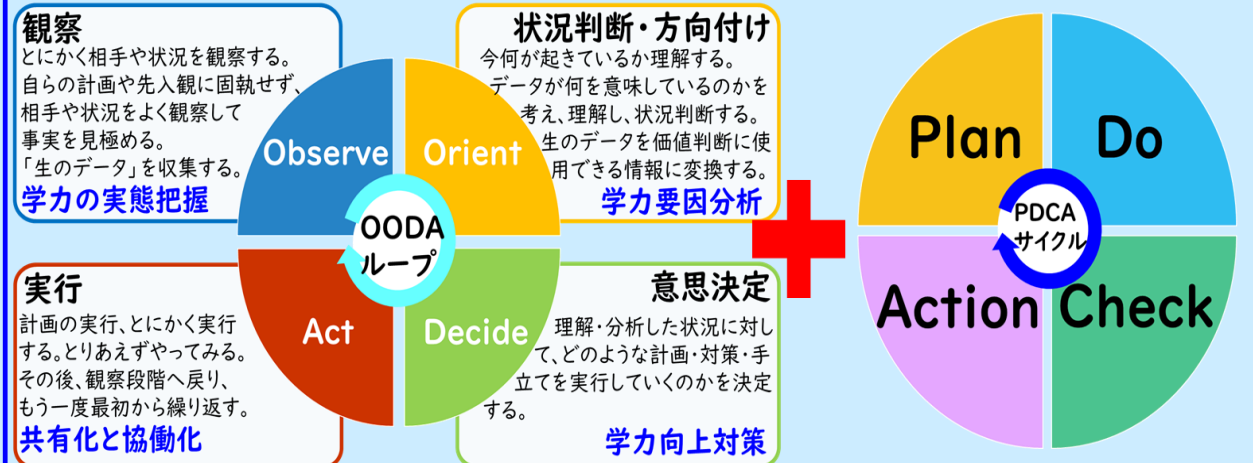
○見える化=可視化による価値付け

- ・取組のめあてに対する達成度合い（自己評価）
- ・他者や友達の取組結果の交流（他者評価）
- ・お互いのよさや頑張りの認め合い（自己・他者理解）
- ・取組への自分自身の変化や成長の自覚（メタ認知）
- ・今後の取組へのめあて設定・意欲化（自己決定）
- ・取組成果を発表する交流会・報告会の実施
- ・日常的な相互評価・交流の場の設定
- ・保護者や教師等からの賞賛・評価



共有化と協働化の融合を図っていくための効果的なマネジメント・サイクル

共有化と協働化の融合を図っていく効果的なマネジメント・サイクルはOODAループとPDCAサイクルを実態に応じて使い分けることです。



何度も素早く（月2回程度）繰り返すこと!!

学期に1回程度!!

教育委員会の指導体制と先導性（リーダーシップ）の発揮の具体的事例

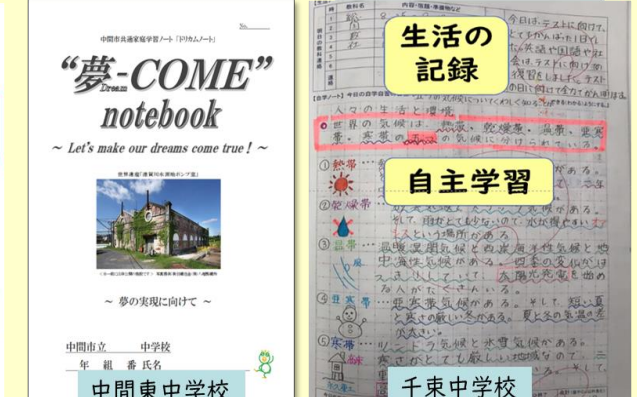
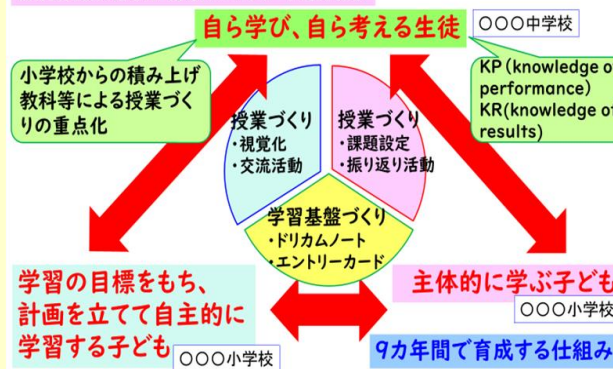
○各学校間の長を捉えた小・中学校連携による取組の具体化や見通しの構想を調整・提案

9年間で、学ぶ意欲や自尊感情を高めるために、どのような取組を重点化・焦点化・具体化するのか、その構想を調整・提案し、見通しをもって実践できるようにする。そのためには、各学校における校長のビジョンを十分に理解し、焦点化して取組の重点化（共通に取り組む内容や育成する資質・能力など）を図ることが大切です。

○各学校の取組がより効果的・効率的に実施できるもの・ひと・ことの予算的支援

取組の活動内容によっては、全小中学校で統一して取り組んだ方が効果が上がることがある場合には、各教育委員会で予算化し、取組の内容や活用方法なども共通して取り組むことが大切です。例えば、家庭学習の取組を促進する「家庭学習ノート」がそれにあたります。

教育委員会の先導性・指導性による小・中連携（例）



「鍛ほめ福岡メソッド」の趣旨を踏まえた学力向上の取組に算数・数学における学習到達度診断シート「未来への一步」を活用した実践結果から、各学校の学力向上に向けた取組のポイントとなる内容が明らかになりました。

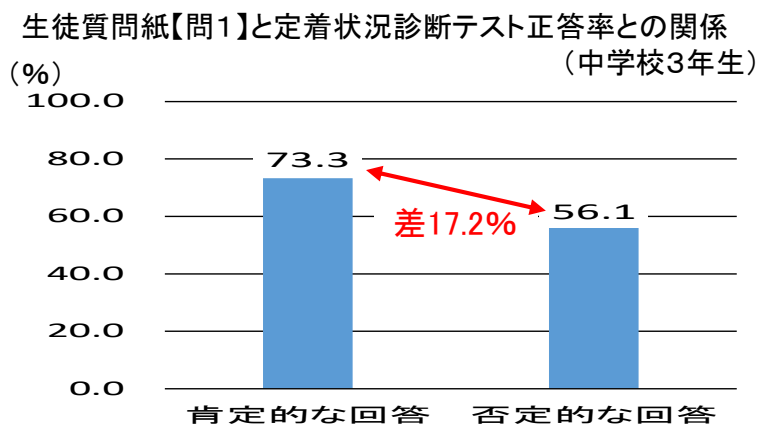
定着状況診断テストと児童生徒質問紙調査を関連させて分析した結果、「**やったらできた経験**」「**認めてくれる先生の存在**」「**自律性の高い動機付け**」の3点が重要であることが改めて分かりました。

番号	児童生徒質問項目
問 1	学校の授業などの中で、「わかった」「できた」と感じて、うれしかったことがある。
問 7	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。
問 11	算数・数学を通して勉強のしかたを身につけるために勉強している。
問 12	勉強したことは、生活の中で役に立つと思うから勉強している。

「やったらできた」の経験を

児童生徒質問紙 問1と、定着状況診断テストの正答率との関係を分析したところ、どの学年も、問1に肯定的な回答をした児童生徒は診断テストの正答率も高くなっていました。

「未来への一步」に取り組む際にも、児童生徒にただ繰り返し問題を解かせるだけでなく、自分で目標を設定させて、「やったらできた」の成功経験を実感させることが大切です。



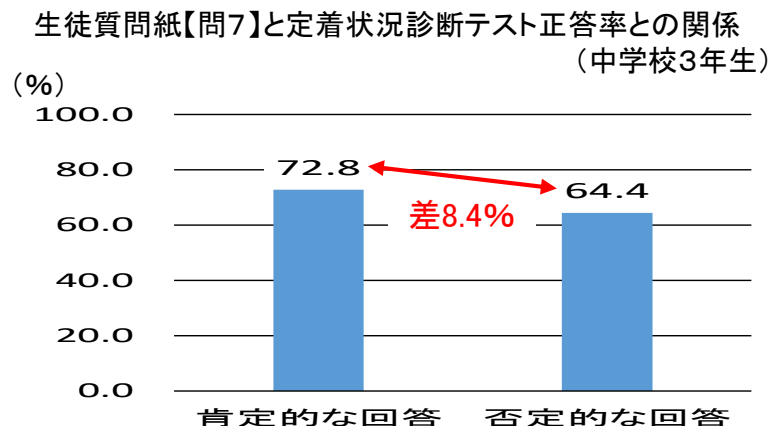
効果があった学校の取組

◇児童生徒にとって「やや困難な目標」を設定させることで、スモールステップで、繰り返し「やったらできた」を実感させることにつながっています。

「認めてくれる先生」の存在

児童生徒質問紙 問7と、定着状況診断テストの正答率との関係を分析したところ、どの学年も、問7に肯定的な回答をした児童生徒は診断テストの正答率も高くなっていました。

教師は、児童生徒のテスト等の結果のみを評価するのではなく、目標達成に向けて努力を重ねたプロセスと結果をつなげて評価することが大切です。

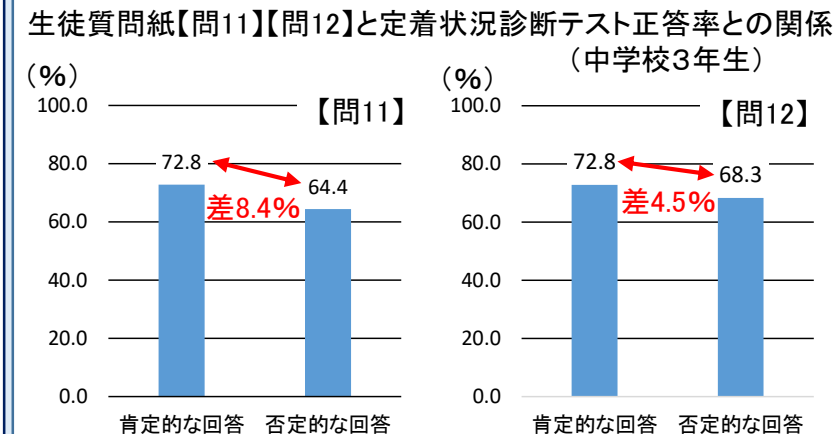


効果があった学校の取組

◇児童生徒への効果的なほめ方や学習ノートへのコメントの記入内容等を全職員で共有、実践することで、児童生徒の学習意欲を高め、内容の定着にもつながっています。

「自律性」の高い動機付けを

児童生徒質問紙 問11と問12についても、肯定的な回答をした児童生徒は、定着状況診断テストの正答率も高くなっていました。
算数・数学の課題に取り組むことで、「その学習内容がわかるようになる」ことだけでなく、「学習の仕方を身に付けることができる。」「生活の中で役に立つ。」等、算数・数学の学習と自分の将来とが結びついていることを実感できるように、教師の言葉で語りかけたり、学習方略の視点で振り返らせたりすることが大切です。



効果があった学校の取組

◇算数・数学の学習や「未来への一步」の取組での「振り返り」において、学習方略や生活への活用といった視点で振り返らせることで、自分の将来へつなぐことができています。

